

令和3年度 第4回 静岡市多文化共生協議会

日時 令和4年3月17日(木) 19:00～
場所 静岡市役所静岡庁舎 新館3階 茶木魚

次 第

1 開会

2 「静岡市多文化共生のまち推進条例」案の審議

パブリックコメント結果について (資料1、2)

3 その他

今後の予定 等 (資料3)

4 閉会

配付資料

- ・次第
- ・委員名簿
- ・資料1 パブリックコメントの結果について
- ・資料2 意見のまとめ (一覧表)
- ・資料3 今後の予定
- ・参考資料1 市民意見交換会の結果について
- ・参考資料2 パブリックコメント資料

静岡市多文化共生協議会 委員名簿

(第10期:2021.5.25.委嘱/氏名50音順)

No.	ふりがな 氏名(敬称略)	委員区分
1	いそべ まさみ 磯部 正己	関係団体代表 (一般財団法人静岡市国際交流協会)
2	いとう ようこ 伊藤 洋子	外国籍等市民
3	いむら ふみの 磐村 文乃	公募市民
4	おがわ たけし 小川 毅	関係団体代表 (静岡市校長会)
5	かとう れいな 加藤 伶奈	公募市民
6	こう ゆき 孔 雪	公募市民
7	ゴー グエン ゴック トラム	外国籍等市民
8	パメラ ジュール	外国籍等市民
9	たかはた さち 高畑 幸	有識者
10	ながさか あるび な 長阪 有美奈	外国籍等市民
11	なかむら なおやす 中村 直保	関係団体代表 (静岡市自治会連合会)
12	のだ としろう 野田 敏郎	有識者
13	ホリウチ アリッセ イズミ	有識者
14	まつなが ひであき 松永 秀昭	関係団体代表 (静岡商工会議所)

静岡市多文化共生のまち推進条例 パブリックコメント結果について

2022年3月 静岡市国際交流課

「静岡市多文化共生のまち推進条例」案の骨子について、「静岡市市民参画の推進に関する条例」の規定に基づき市民意見提出手続（パブリックコメント）を実施しました。

提出のあった意見の概要は以下のとおりです。

パブリックコメント実施概要

- 意見募集期間 2022（令和4）年1月26日（水）～2月25日（金）
- 配付（閲覧）場所 市国際交流課、各区の市政情報コーナー、市ホームページ
- 意見の提出方法 郵送、文書の持参、ファクシミリ、電子申請
- 資料の言語 日本語、英語、中国語、ベトナム語、ポルトガル語、やさしい日本語

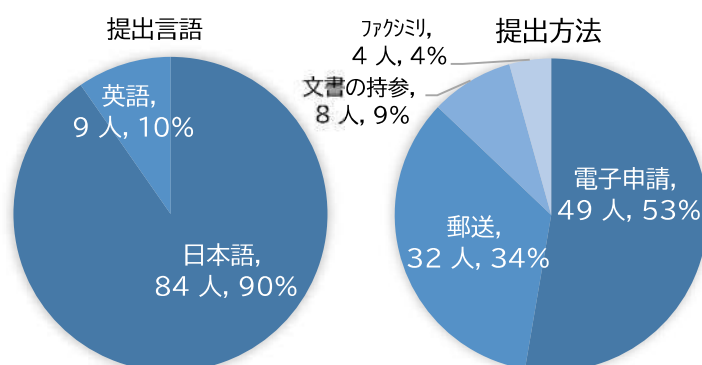
1 意見提出状況

提出者数 93人

（内訳）提出言語－日本語	84人
英語	9人
提出方法－電子申請	49人
郵送	32人
文書の持参	8人
ファクシミリ	4人

意見数 236件

（内訳）設問1	92件
設問2	144件



2 意見の概要

(1) [設問1] 多文化共生の必要性について

外国人住民が増加する現状等を踏まえると、様々な理由から、本市で多文化共生を進める必要性は高いというご意見を91人からいただきました。

問：静岡市で、多文化共生を進めることは、必要だと思いますか？

理由		
ア. 思う	91人	別紙一覧表のとおり
イ. 思わない	1人	〃
ウ. わからない	0人	
無回答	1人	
計	93人	

(2) [設問2] 条例案骨子への意見について

骨子への賛成意見17件、「生活環境の整備」についての意見17件など、延べ144件のご意見をいただきました。

【意見の概要と市の考え（案）】

- ア. 「基本理念」などの条例の各項目や資料で用いた「静岡人」などの語句・表現等について、ご意見をいただきました。解説書や啓発資料を作成し、分かりやすい周知を行います。
- イ. 「施策の柱」とした「生活環境の整備」「教育の充実」「地域における交流促進」「人材の育成」について、具体的な事業提案を数多くいただきました。今後策定する「多文化共生推進計画」に登載する事業検討等に役立たせます。
- ウ. 多文化共生について、市民の参画や課題解決のしくみの重要性に関するご意見をいただきました。条例案への反映を検討します。
- エ. その他、差別の解消や外国人住民の移住・活躍促進など、条例が制定された際の啓発等、今後の施策推進にあたって参考となるご意見を数多くいただきました。

問：[資料2]「静岡市多文化共生のまち推進条例」案の骨子について、意見をお書きください。

意見の内容 ※詳細は別紙一覧表のとおり		市の考え(案) A：条例に反映する B：今後の施策の参考とする C：その他、感想など 参考として受け止める
1. 条例案骨子への賛成意見	17件	C
2. 条例制定への反対意見	1件	C
3. 「定義：多文化共生のまち」	2件	C
4. 「基本理念」(語句・表現以外)	2件	C
5. 「基本理念」等(語句・表現に関するもの)	6件	B
6. 「基本理念」等(語句：「静岡人」)	8件	B
7. 「市の責務」	1件	B
8. 「市民の責務」	2件	B
9. 「事業者・団体の責務」	3件	B
10. 「施策の柱」全般	10件	B
11. 「生活環境の整備」	17件	B
12. 「教育の充実」	16件	B
13. 「地域における交流促進」	15件	B
14. 「人材の育成」	4件	B
15. 「多文化共生推進計画」、「多文化共生協議会」	3件	B
16. 市民の参画	5件	A
17. 差別の解消	6件	B
18. 多文化共生の課題解決	1件	A
19. 外国人住民の移住・活躍促進	7件	B
20. 多文化共生全般	4件	B
21. 静岡市の特色	1件	B
22. 条例の啓発・プロモーション	12件	B
23. パブリックコメントへの意見	1件	C
計	144件	A 6件 B 115件 C 23件

※意見の内容は自由記載を分類整理したもの。1人から複数の意見あり

3 意見を反映する主な修正(案)

意見の概要	原案	修正案の説明
◇ 市民の参画 日本人、外国人の意見を聞き、事業に参画できるようにする。	「多文化共生推進計画」の項目で「市民の意見、静岡市多文化共生協議会の意見を聞いてつくる」と規定している。	「市の責務」としても、市民の意見を聞き、参画を促すことを明記する。
◇ 課題解決のしくみ 文化の違いから生じる、個人や組織間の課題解決のしくみをつくる。	(規定なし)	国籍、民族などの不当な差別的言動に関する苦情や相談について、市は、関係機関と連携を図り、適切に対応する規定を追加する。

【設問1】 多文化共生の必要性について（問：静岡市で、多文化共生を進めることは、必要だと思いますか？）

1 「思う」と回答した人の理由 91件

No.	意見の概要
1	本市においても、日本国内においても、高齢化の中で生産年齢人口が減少していく中で、労働力として、また、人口活力の維持、また、選ばれる都市として、成長していく上で、日本人側のマインドや多文化共生の意識をより高くしていく必要があると考えるから。
2	子どもたちが、今後、国際人として活躍するためには、日頃から多文化共生の環境が必要。
3	静岡市は、隣の愛知県や浜松市と比較しても、外国人の集まる場所の認知度が不足しているように感じます。多文化共生を促進させるためには、そうした場所を紹介するwebサイトを作ったりすることも大事。静岡市のそういったHPはデザインが地味で、個人的にあのデザインではHPの滞在率が伸びないと思います。老若男女にわかりやすいサイトを作って、多文化共生を日本人にとって身近な物にしたり、在住外国人にもわかりやすいようにするべきです。
4	他の市や町と比べて、外国人の方が暮らしにくい街であるように感じる。 外国人の方が困ると感じる人が多い。
5	〇〇大学の外国人留学生です。静岡を愛する外国人です。多文化共生を進める理由は一つだけです。それはより豊かな住みやすい街を作るからです。日本人と外国人はお互いに文化に尊重し、文化を触れ合うイベントだけではなく、普段の生活をお互いに理解し合うことが何よりです。去年は静岡市内で外国人差別のコンビニ貼り紙問題「外国人が最近多いからマンビキよく注意」のようなことがありました。言語の壁があまりない私たち留学生は非常にショックを受けました。自分は何も悪いことをやらないのに、静岡が大好きなのに、こういうことは非常に認めかねます。だからこそ、多文化共生まちづくりを進めることができたなら、こういう問題がなくなる、言語の壁をなくす事だけではなく、心の溝をなくす工夫をするべきです。
6	①海外からの留学生受け入れには必須条件 ②市内企業の海外からの赴任者受け入れにも必須条件 ③これらがなければ、結局は整った行政（東京地区、名古屋地区）で家族と生活し、赴任者のみが静岡市単身赴任になりかねない
7	多様性を理解する多文化共生を進めることは外国人の方が住みやすくなるだけでなく、過去から住んでいる日本人も住みやすくなると思うため。
8	日本人ではない方々がたくさん住むようになっていくしこれから増えるので。
9	静岡市に住む人は、平等であるべきと考える。静岡人と共生する（生きる）事はお互いに話しあう、助けあう、理解しあう事を日頃から推進できる為に必要。これからは、外国人が生活する上で静岡の為に必要になる。

10	<p>少子化のため日本は労働力を得ることができなくなり、人件費が高騰していく。静岡市でも同様。日本は働き手が欲しい。外国人は仕事が欲しい。お互いのwin-winとなる関係 働き手が欲しい割には外国人との付き合い方を理解できない日本人が多い。島国で他民族を受け入れることに慣れてないということもあるが、これからは外国人とお互いに理解し合い、助け合っていく姿勢が必要。</p>
11	<p>地域に活力を取り戻すために、外国の方を受け入れられる体制が必要。</p>
12	<p>大変多くの外国人が静岡市内に居住していることに驚きました。一層静岡市に多くの外国人が集まり静岡の活性化に貢献してもらいたいので必要と思います。スローガンなどあっても良いと思います。「静岡を世界の人と100万人都市へ」など。 呉服町か七間町に「交流プラザ」を設け週末の運営は各国のボランティアの人たちに任せる。もちろん異文化に興味があったり多言語を覚えたい日本人にも集まってもらう。衣食住や観光やイベントや仕事に関する情報を持ち寄ってもらう。静岡市を始め周辺市の求人情報も見れる。行けば、「何とかなる街・静岡」の風評を得る。「外国人に優しい温かい街・静岡」を目指して外国人が集まる街になるといいと思います。</p>
13	<p>いろいろな国の文化や言葉を知ることができる。 地域で活躍してもらう場を設けることにより、地域の経済の活性化を目指せる。</p>
14	<p>I think it would be great if staff at stores and restaurants had more training on how to help customers who cannot communicate well in Japanese. I have passed the JLPT N4 level, so I can have basic conversations in Japanese, but sometimes the staff at some stores and restaurants are really hard to communicate with because they always use keigo and they cannot explain things in simple Japanese that I am able to understand. Some stores have technology that is able to help them communicate with me, but sometimes the technology is not good and is confusing. It also takes a long time for them to figure out how to use the technology sometimes. I think it would be better if they knew how to communicate in simple Japanese instead. Especially I want them to know that it is ok to not use keigo with me. It is so difficult to understand. I'm sure they are trained to always use keigo with customers, but when they are having trouble communicating with someone because they don't understand Japanese, I think it's ok to stop using keigo and use simple Japanese. [日本語訳] 店舗やレストランのスタッフは、日本語が不自由なお客様の対応ができるようなトレーニングをもっと受けていただけると嬉しいです。 私は日本語能力試験N4レベルなので、日本語で基本的な会話はできますが、店やレストランのスタッフは、いつも敬語を使っていて、やさしい日本語で説明ができないため、コミュニケーションを取ることが難しい場合があります。一部の店舗は通訳機械を使いますが、精度があまり高くなく、混乱することがあります。また、スタッフが通訳機械の使い方が分からず、時間がかかることもあります。 代わりに、やさしい日本語を知っていれば良いと思います。特に、敬語を使わなくても大丈夫だということを知ってほしいです。敬語を理解するのはとても難しいです。お客様には必ず敬語を使うようにトレーニングされていると思いますが、日本語が分からずコミュニケーションが取れない時は、敬語をやめて、やさしい日本語を使っても良いと思います。</p>
15	<p>If us foreigners are going to live among Japanese people, we (Foreigners & Japanese people) need to understand each other a lot more. If we can understand each other on a deeper level, we can avoid making mistakes and communicate with each other more easily. [日本語訳] 私たち外国人が日本人とともに暮らすのであれば、私たち（外国人と日本人）はお互いをもっと理解する必要があります。お互いをより深く理解できれば、誤解を防ぎ、コミュニケーションが取りやすくなります。</p>

16 All people should be able to have access to places and benefits equally, it seems to be common practice for people that have a couple of bad experiences with foreigners to then ban all foreigners from specific establishments or benefits and not take into account all of the bad experiences that have occurred from their own people that they're willing to forgive and look past. Why can Japanese teachers drive but ○○s can't, yet ○○s are required to go to multiple schools throughout the week? Why is the process of getting a foreign drivers license changed so much more difficult in Shizuoka than in Tokyo? Why is it more difficult to get a long term (3-5year work visa) or permanent resident visa in Shizuoka than in Tokyo? Why do work places (including the city itself) want to hire foreign workers to the point of recruiting them in foreign countries and offering to pay for airfare, but refuse to let them continue working after 5 years without making them reset the process? It's as if they are saying, "We want you to come and work for us for a short period of time, but please do not make this city your home. We don't want you staying long term. We don't want you to have a family or retire here." Even if more people are accepting and educated about foreign culture, unless they're willing to accept them living in the city long term foreigners will continue to feel unwelcome. The city itself should be leading by example and offering full time positions for those that have already stayed for the 5 year period and those that have already been in Japan for a long time and are looking for long term employment. I have lived in Japan for 4 years now and I find myself constantly debating about whether or not I should stay in Japan for that reason. I love Japan and I love Shizuoka and I would love to retire here even though I could make a lot more money in America. Yet I'm constantly faced with the fact that I can only work this current job for 5 years and then I'll have to look for something else and my financial situation will reset. Imagine putting in the years to make ¥○○ per month and at the 6 year mark you have to get a new job or reapply again and start over to make at most ¥○○ per month just because you're a foreigner. It's ridiculous. Imagine being told there's no space for you and your friends to eat at a restaurant even though you can see many empty tables and the Japanese group that enters right behind you is allowed to enter. Yet when you approach and question the situation in Japanese you're given a stunned face and an "ah, sumimasen shoganai" attitude. I love this country and this city which is why I want it to do better. The current situation should be a wake up call to everyone that it's more beneficial to try and keep foreigners long term, then they wouldn't have a sudden shortage of foreign workers when situations such as a pandemic occur and the ability for foreigner workers to come to Japan becomes difficult.

[日本語訳]

全ての人々が平等に場所を利用し、利益を得られるべきです。日本人同士だと悪い経験を許すのに、外国人との悪い経験がいくつかある人は、特定の施設や利益から全ての外国人を除外することがよくあります。なぜ日本人教師は車通勤できるのに、1週間に何校も回る○○（職業名）はダメなのでしょう。なぜ静岡では外国人運転免許証を日本運転免許証に切り替える手続きが東京よりもはるかに難しいのですか。なぜ静岡では長期在留資格（3～5年労働在留資格）や永住資格を取得するのが東京より難しいのですか。なぜ雇用主（市自体を含む）は、海外から採用し、航空運賃を支払ってまで外国人労働者を雇いたいのに、5年以上働かせてくれないのですか。5年以上働きたい外国人は、最初から手続きをやり直さないといけないのはなぜですか。まるで「短期で働いてきて欲しいが、この市を故郷にしないで下さい。長期滞在しないで下さい。ここで家族を作って定年まで居て欲しくないです。」と言っているようなものです。多くの人が外国の文化を受け入れ、教育されているとしても、外国人が市に永く住むことを喜んで受け入れない限り、外国人は受け入れられていないと感じ続けるでしょう。市自体が模範を示し、すでに5年間滞在している人や、日本に長く滞在して、長期雇用を探している人のためにフルタイムのポジションを提供する必要があります。

私は日本に住んで4年になりますが、日本に残るべきかどうかを常に自問自答しています。私は日本と静岡が大好きなので、アメリカではずっと高い給与がもらえたとしても、定年退職まで日本で働きたいです。しかし、5年が経ったら、また別の仕事を探さなければならず、経済状態がリセットされるという事実と向き合わなければなりません。想像してみてください。何年も働いて月額○○万円まで給与が上がったのに、6年目になると、外国人という理由で新しい仕事を探すか、もう一度応募して、月額○○万円からやり直さなければなりません。おかしいでしょう。想像してみてください。レストランで、空のテーブルがたくさんあり、すぐ後ろの日本人グループは入店できるのに、あなたやあなたの友人は「満席です」と言われることを。日本語で状況を聞いたら、相手からビックリした顔で「あっ、すみません、しょうがない」といった態度を取られます。

私はこの国とこの市が大好きだからこそ、より良くしてほしいです。外国人に長期滞在してもらった方が有益であると、現在の状況を注意喚起として捉えたほうが良いと思います。そうすれば、パンデミック等が起こり、入国が難しくなっても、急な外国人労働者不足にはなりません。

17	<p>Japan has been considered as one of the safest country in the world. Moreover, Japanese people are law abiding and welcoming towards foreigners. As a result, this ordinance will make everyone's life much more peaceful and frictionless in the foreseeable future.</p> <p>[日本語訳] 日本は世界で最も安全な国の一つと見なされています。さらに、日本人は法律を遵守し、外国人も歓迎してくれます。結果として、将来、この条例は皆の生活をより平和で摩擦のないものにすると思います。</p>
18	<p>I think that we must promote it because it allows everyone to better understand each other and it will reduce the possibility for cultural misunderstandings to occur.</p> <p>[日本語訳] お互いをよく理解し、文化的な誤解が生じる可能性を減らすことができるので、私たちは多文化共生を推進するべきだと思います。</p>
19	<p>Yes, I believe it is important to promote intercultural cohesion in Shizuoka City. It is of my opinion that when compared to other multicultural spaces abroad, the public's perception of other cultures in Japan tends to be more lacking than other places. Concepts such as tolerance and the social customs that are common in multicultural societies are a bit more green (not as developed) in places like Shizuoka City. This is not a problem per say, simply a reality. As somebody that has also experienced a "different treatment" just based on how I look, I understand the sentiment of those people in the survey you conducted. However, with this said, I also wouldn't want for the public perception to be that the situation is worse than it really is. From the same lack of "experience" that gives us negative outcomes, that same lack of knowledge also sparks "curiosity" and up-front kindness. In short, I think it is important to make people aware of this issues, and to see Shizuoka City as a growing multicultural space. From the perspective of a city council, if the growing population of non-Japanese residents is significant enough, than the tactful teaching of intercultural cohesion is of most importance to you (and everyone).</p> <p>[日本語訳] はい。静岡市での多文化共生推進は大切だと思います。 他の国と比べて、日本の異文化に対する認識は欠けているというのが私の意見です。多文化社会では一般的である寛容の概念や社会的慣習などは、静岡市のような場所では少し未熟です。これ自体が問題というわけではないですが、ただの事実です。私も見た目で「特別扱い」を経験した人間として、市が行っている調査対象の人々の気持ちがよく分かります。 とは言え、皆の認識が実際以上に悪くなってほしくはありません。未経験や無知がマイナスに繋がることもあれば、「好奇心」とまっすぐな優しさに繋がることもあります。要するに、この問題を人々に知ってもらい、静岡市はまだ成長中の多文化社会として認識することが重要だと思います。市議会として、増加している外国人住民が重要であるならば、多文化共生についての如才ない教育が市のみなさんにとって非常に大切だと思います。</p>
20	<ul style="list-style-type: none"> ・ 静岡市にも多くの外国人が住んでいる。 ・ 静岡市は世界遺産の構成資産やサクラエビ、〇〇（プラモデル）など外国人に向けて発信しても誇らしいものが多い。 ・ 静岡市に魅力を感じて、長く住んでいただきたい。
21	<p>本市でも外国人を見かけることが多くなったな、と実感しています。自分には小学生の子がいますが、街中やお店で外国人を見つけると、珍しがったり、（自分とは違う存在に警戒して）距離をおいてしまったりする様子です。これからの時代は、大人だけでなく子どもたちも一緒に「ちがいのある他者との共生」について理解を深め、行動し、みんなが暮らしやすい社会になっていくと良いなと思います。</p>
22	<p>このような取り組みがあること自体が外国人にとり安心につながる。</p>

23	<p>Having intercultural cohesion means that everyone will be able to live in harmony without any discrimination based on circumstances like gender, ethnicity or nationality (to name a few). It will promote peace and a more effective intercultural exchange.</p> <p>[日本語訳] 多文化共生が推進されれば、性別、民族、国籍などの差別なく、誰もがともに暮らせることとなります。平和とより効果的な異文化交流が促進されるはずです。</p>
24	<p>本来人間はみな平等であり平和で安心して生活する権利があります。たとえ国籍、民族が違ってても又、他国で住んでいてもそうであるべき。静岡市が国籍や民族などが異なる人々が、互いの文化的な違いを尊重し、安心して暮らせる街づくりを進めることは大変良い。</p>
25	<p>It is very important to promote intercultural cohesion in Shizuoka City. Many foreigners, including myself, face difficulties every day living in Japan. Foreigners are often denied service, discriminated against, bullied in school, avoided in public, and more. This leads to high mental stress for foreigners living in Japan and makes them want to no longer live here. As ○○, people don't treat me different upon first look, but I can see the attitude of many changes when they hear me speak English. This ordinance is very important for foreigners living in Shizuoka right now and long into the future. Foreigners need human rights in Japan.</p> <p>[日本語訳] 静岡市で多文化共生を推進することは非常に重要です。私を含む多くの外国人は、日々、日本で住むのに困難に直面しています。外国人はしばしば、拒否されたり、差別されたり、学校でいじめられたり、公の場で避けられたりします。これは、日本に住む外国人にストレスを与え、日本に住みたくないという気持ちにさせてしまいます。私は○○（民族名）なので見た目で見判断されませんが、私が英語を話すのを聞くと態度が変わります。この条例は、現在そして将来にわたって静岡に住む外国人にとって非常に重要です。外国人は日本で人権を必要としています。</p>
26	<p>Yes, because I feel like it will help ethnically non-Japanese people feel safer and happier living within Shizuoka City. Therefore, it will benefit not only the many people of other cultures living within Shizuoka City but also the city itself as more people will come to realize what a thoughtful and wonderful place Shizuoka City is.</p> <p>[日本語訳] はい、静岡市に住む民族的に日本人ではない人々がより安心して幸せに過ごせるようになると思います。文化的違いを持つ多くの人以外にも、静岡市がいかにかに思いやりのある素晴らしい場所であるか知る人が増えることにも繋がり、市自体にもメリットがあると思います。</p>
27	<p>外国人のパートナーが居るが、その周りの外国人の友人たちは職場で所謂「ありえない」仕打ちを受けたりすることがあるという。例えば本人や身内の冠婚葬祭について職場の全員が知っていたり、ワクチンの3回目接種を外国人の職員にだけ周知されていなかったり。プライベートには口を出さない、全ての職員が平等に重要な告知を受けることが出来るなど基本的なレベルの事が出来ていないんだなと本人たちの話を聞いて思います。</p> <p>ちなみにこれは○○（機関名）のことです。 静岡市が全ての人にとって暮らしやすい場所になればと思います。</p>
28	<p>外国人住民の急増のなか、地域社会の一員であることの相互理解が必要であるから。また、多文化共生の考え方は、あらゆる人権の尊重につながる理念であり、静岡市が進める「誰一人取り残さない」SDGsの理念にも通じるもので、まちづくりに不可欠と考えるため。</p>

29	<p>①近年の静岡市における外国人動向 条例骨子案に記載がある通り、静岡市の外国人住民が増加傾向にあります。また、令和元年に開設された静岡市多文化共生総合相談センターへの相談件数は、前年度比1.7倍（同内容の事業との比較）となっています。相談件数上位に挙がっているのは、新型コロナウイルス関連の相談であり、コロナ禍を抜け出すまでの期間は継続的な支援が必要と料します。さらに、住民登録・届出等、国民健康保険・年金等の手続き関連の相談件数も上位を占めています。近年の外国人増加傾向や相談件数の増加を考慮すると、外国人支援・多文化共生推進の必要性が今後より高まると予想します。</p> <p>② 静岡市の外国人住民が抱える生活面での課題 2020年に実施された外国人住民アンケートや多文化共生協議会の議事録を拝見させていただき、日常生活で悩みを抱える外国人がおり、支援を強化する必要があると考えるためです。例えば、8割以上の外国人住民が日本語で日常会話を行うことが可能ですが、「病院で言葉が通じない」、「問診票の言葉を理解するのが難しい」と答えた外国人住民も一定数います。また、「就職するにあたり、その企業が外国人採用を行っているかどうか分からない」や、「ごみの分別などの生活上のルールや異なる生活習慣に戸惑う」といった声も上がっています。さらに、約7割の外国人住民が、市役所の窓口への要望として「わかりやすい日本語で話してほしい」、「申請書類を多言語または、やさしい日本語にしてほしい」と回答しています。私自身、国際交流課に足を運び、ブースにあるパンフレットを拝見させていただいたことがあります。ごみの出し方ガイドブックや相談窓口の紹介等、パンフレットを通じた広報・周知活動を実施しているという印象を受けました。また、以前同課の職員の方にお伺いした際、「情報を必要としている外国人住民の手に、いかにその情報を届けるかという点に留意している」とご教示いただきました。このことから、外国人が日常生活で抱える悩みについて対策を講じ、その情報をいかに届けるかという点も含め考えていく必要があると料します。</p> <p>③ 外国人と日本人の交流面での課題 日本人と外国人の相互理解・交流を促進する必要があると考えるためです。現状は、外国人住民の3割が自治会・町内会に加入しているものの、4割が地域活動に参加しておりません。その一方で、「今後参加してみたい活動はありますか」という質問に対し、何かしらの分野で活動に参加したいと答えた人数は6割超でした。また、外国人住民の4割が差別された経験があります。私自身、外国人住民への差別の原因を文献で調査し、外国人に対する漠然とした「怖い」といったイメージが先行していることが大きいと料します。さらに、令和2年度静岡県多文化共生基礎調査によると、「外国人との付き合いがあるか」という問いに対し、「外国人の知り合いはいない」が41.7%で最も多く、「近くに住む外国人とあいさつ程度の付き合いはある（あった）」が16.1%でした。一方で、外国人が増えることに対しては、「社会に多様性が生まれること」や、「地域経済の活性化に貢献する」など、ポジティブな意見を持つ人が比較的多い結果でした。このことから、外国人住民と日本人住民は相互理解・交流を求めているにもかかわらず、その機会を逃しているため互いに敬遠している状況であると考えます。この課題を改善するために、外国人と日本人の交流の機会の促進が重要であると考えます。</p>
30	<p>これからも国際交流は盛んになり、外国人の流入がふえると考えられる。静岡市でくらす外国人が日本人と同じような待遇を受けることが必要と考える。</p>
31	<p>情報産業の発展により様々な思想に触れられるようになり、多様性を許容できなければ生きていくことのできない世の中になっているため。</p>
32	<p>多様性を理解し行動できることが大切であるため。</p>
33	<p>現実的に地域社会は多文化であり、さらに文化や習慣は細分化されていくと想像もできる中ですべての文化を理解して認めあうことと、異なる文化であっても、生活の安全が脅かされないように合意することは重要だと考える。</p>
34	<p>多文化共生を進め、外国籍や外国をルーツとする人たちに、仕事や暮らしの場として、世界や日本の中から選んでもらえるような「まち」になることは、今、このまちに住む私たちにとっても生活しやすいまちになることだと考えるため、必要だと思います。</p>

35	住みやすいまちにするため。
36	1.1万人もの外国人がいらっしやることを知りました。小さなコミュニティの中だけで生活するのではなく、ぜひ、全市に広げてあげたいと思う。外国の文化などを知りたいです。
37	多文化共生社会の実現は誰にも住みやすく快適な街を造ることであり、それは、自分自身はもちろんのこと、周囲の人も幸福感や満足感を持って生活できることにつながることであるため。
38	国籍や民族の違いによる差別をなくし、逆に、それぞれの個性を認め合い、助け合い、協働して持続可能なまちの実現に向け進めることが大切であると思う。
39	それが当たり前だと思うから。
40	どんな人にとっても住みやすい静岡市であってほしいため。
41	外国人住民が増加する中で、人種にかかわらず、市民のひとりひとりが生活しやすいまちづくりを行うべきだと思うから。
42	国の社会福祉施策でもある「地域共生社会の実現」という理念にも、合致した考え方であり、今後さらにグローバル化が進む現状を踏まえ条例の制定は必要であると思う。
43	お互いの文化的な違いを認め合い、助け合うことは大事だと思うので、また、国籍・文化の違いを認め合うことは、他の様々な違いを認め合うことにもつながるので。
44	色々な国の人と関わったり、会う機会があることで、お互いに視野が広がると思うからです。
45	少子化が一段と進行すると、日本人だけでは仕事の担い手が不足することが予想されます。今後は、仕事の担い手という位置付けだけでなく、共同体の一員として、様々な分野での外国人の活躍が期待されていると思います。
46	一万人もの外国籍の方が静岡市で共に暮らしているのだから当然だと思う。
47	行政区は、元々、そこに住む人々の集まりで成り立つものなので、当然、外国の方々に住めば、その方々も含めた行政区に変わっていく必要があると思います。
48	言語や文化が違うだけで日本人と上手く話せなかったり、困った時に誰にも聞けなかったりして、苦しんでいることや、私達日本人がやさしい日本語を使えないこと、少し違う考え方や行動をするからといって笑ったりバカにしたりするのは良くないからです。「やさしい日本語」・「やさしい行動・態度」をとることが大事だと思います。これからどんどん外国人労働者が増えていきます。今のうちに若い人達に伝えていくことが大事だと思います。
49	他国の文化や習慣等を外国人住民の方から直接お聞きする機会がありました。テレビや書籍で知り得た知識よりも感慨深く心に残りました。自身のスキルアップにも繋がりが有意義であると思います。コロナ禍ではありますが、イベント、フェアで交流の場を作っていただきたいと思っています。

50	多文化になっていくことは必然であり、しっかりと対応していく事が必要と思うので。
51	現在、全世界がコロナパンデミックの中、全国の皆さん、静岡市民の皆さんが大変な状況の中にいると思っています。ですから、多文化共生を進める必要はあると思っています。これは、国籍問わず2020年から今現在、貧困生活を送っている方々が現在でも大勢いると思います。そしてその方達は実際は貧困生活を送っていないながら自分達から声を出しているのか出していないのかどうか私達には分かりません。ですから私達が意見交換や情報交換などをしながら、その方達の為になる方法を考えて、行動に移して援助出来ることがあれば、静岡市民の一人でも二人でも助かれば、日常生活に負担を減らせて幸せに暮らすことを出来たら良いなと思っています。それは私の希望で私の願いであります。
52	世界の流れであり、世界に開かれた市になってほしい。
53	様々な人の文化的背景の違いを尊重し合うことは必要だと思うため。
54	人口減少が著しいなか、今後の社会を維持・展開していくためには海外からの人材に頼らざるを得ない現状があるため。しかもっとシンプルに考えると、なぜ自国民だけで存続させていこうと思うのかすら理解が難しいです。さまざまな人がいるのはどの国も同じことであり、広くみれば「多文化共生」とは隣人を知ることと考えます。
55	市内の各所で外国人を見かけることが多くなり、当自治会においても町内に日本語学校や学生寮があります。留学生とは普段顔を合わせても挨拶はもとより会話もほとんどありません。ゴミ出しのルールが一部守られていなかったり、大声で話をするなどがあり、文化の違いというよりも日本のルールを理解していないことに原因があると思います。 また、災害に備え学区や自治会の防災訓練への参加も必要ですが、実施できていません。 日本語学校独自で文化祭的な行事があり（ここ数年はコロナの影響ではありません）ますが、理解不足のため参加者は少ないようです。 したがって、自治会の会員でもある留学生などの外国人との対話や行事参加（前記防災訓練、学区運動会、神社夏祭りなど）が行えるようになれば、意思疎通が図られるため、自治会活動や災害時の避難行動などもスムーズになり、お互いにメリットとなると考えます。
56	コロナ禍で、外国人の働く人が、仕事や、住居を失い困っている事例が多く寄せられている。これらの問題解決には、お金が必要だが、それを支援する体制が、静岡市に限らず、十分でない。社会福祉協議会の緊急小口貸出金制度も、外国人にとって、高いハードルが多々あって使いづらい。充実した、使いやすい支援制度を作ってほしい。それは、日本人にとっても大切なことだから。
57	多文化共生を実現するということは、あらゆる意味でのマイノリティを含んだ市民が安心して、幸せに暮らせる社会を実現することと同義であると思います。非常に難しい目標ですが、市民みんなが異なる文化を相互に理解して、思いやれる社会は理想です。
58	静岡市の外国人住民が増えている現状があるので、お互いのちがいを認め尊重したうえで、共に生活をしていくことが今後必要になってくると思うため。
59	外国人住民の人口が急激に増加しており、今後の静岡市の発展のためには、外国人住民との共生は必要不可欠であり、全国の政令市で最も人口が少なく、急速に人口が減っている静岡市においては、外国人住民は貴重な人財であるため。

60	1人でも多くの外国人に静岡に住むにあたって快適に心地良く生活してもらいたいと思うからです。また日本人の私たちが外国人と接することも大切だと思います。
61	外国人住民の方々の人数が増えているため、その方々が少しでも暮らしやすい環境を作っていくことは大事だから。
62	私の住む地域でも、外国人が段々増えていて、それに気づくたびに、嬉しくなります。しかし、やはり言葉や文化の相違から、近所のルールを守ることができず、トラブルを招いてしまうことがあるのも事実です。その為、これからもっと外国人が増えることも加味して、多文化共生の基盤を今のうちに築くことは彼らにとっても必要なことだと思います。
63	静岡県における外国人住民の増加に伴い、困っている人の数も増えているため。さらに、日本人が外国の文化を知らなかったら、日本人の暗黙の了解が通じない外国人を責める人も出てきてしまったりして、誰も幸せにならないトラブルが起きてしまうから。
64	なぜなら外国人の方が年々増加しているからです。資料によると、2013年では7,884人だったのに対し、2021年では11,097人にまで急増しています。もし多文化共生を進めることができれば、より一層外国人へのサービスが充実し、彼らも安心して生活できます。また現在はコロナ禍により、人と接触する機会が少なくなり、より私たちと外国人の方の間に隔たりが生まれてきていると思います。なので、私たちも外国人の方もお互いについてよく知り、理解することが必要だと思います。なので多文化共生を進めることは必要だと思います。
65	条例制定の背景にも書いてあるように、外国人住民は近年増加しているため、その人達が不自由なく過ごすことが出来るような環境が必要になると考えます。また、人々が生活する上で外国人住民との関わりを持つことは、必要な場面も出てくると考えます。
66	特に宗教面で、日本人はほとんど無宗教（別の意味で多宗教）の国です。インターネットをみていると、宗教を信じている方は、あまり無宗教で無神論者に対していいイメージを持っていない様に思えます。そういう方たちが日本人の宗教観を理解し、逆も同じで日本であまり普及していない宗教を理解することで、視野が広がり互いに良いと思います。
67	<ul style="list-style-type: none"> ・学校で、外国人労働者が増え、共生の必要性について習ったから。 ・外国人の友達とその家族が住居を探すときに、「外国人お断り」のところが多くて困ったという話を聞き、外国人を排除するような行為に疑念を抱いたから。 ・外国人労働者たちが職場でいじめにあっていたというニュースをみた。共生を進め、情報や知識を得にくい彼らを救い、周囲の人々の偏見や差別をなく必要があるから。
68	最近、外国にルーツをもつ子供への差別が増えています。差別してしまうのは、日本人の寛容さの問題だとされています。彼らは文化や言語が違うだけで、怖気付いてしまう人が多く、上手くコミュニケーションがとれません。また、異文化への無関心から溝ができてしまいます。そこで必要とされるのが多文化共生です。多文化共生は、様々な国籍・民族・宗教を理解し、外国人だけではなく、静岡市民全員の相互理解にもつながっていくでしょう。そうすれば、豊かで愛情溢れるまちを多文化共生で形成することができ、街の活性化が進むと考えられます。
69	外国人労働者や技能実習生が増えている今、私たちが彼らのためにできることは多種多様な街づくりだと考えたからです。様々な境遇、文化、言語などをもった人々が偏見で決めつけられてしまう世界ではなく、それを互いに尊重し合えることの大切さを広めていきたいです。

70	グローバル化が進み、海外とつながりをもち、共存しあうことが大切な世の中になってきているから。多文化共生を進めれば、互いの文化を尊重し、助け合い、学びを高め合うことができると思う。静岡市全体の活性化にもつながる。
71	近年、グローバル化が進んでいる中、私の近所のまわりにも、様々な国籍の方が住まわれるようになりました。私の家のマンションではゴミ出し時の選別（ルール）が難しく、そうしたルールは外国人の方にとっては、より難しいものになっていると思います。そのため、多文化共生は現代の私たちにとって重要であると感じます。
72	静岡市の外国人住民の割合は、近年高くなっていると同時に、地震や台風などの自然災害も多発するようになっていきます。そのため災害が起きたときに多くの外国人住民は難しい日本語がわからないために大切な情報が伝わらなく、危険にさらされる可能性があります。日本人と外国人で特にそのような緊急事態のときに大きな差が開くのは良くないと思います。多文化共生を静岡市で進めることで日本人と外国人という壁をなくし、静岡市を誰もが住みやすく安心できるまちにすることができると思います。
73	静岡市の外国出身の方の居住率が増えているという理由はもちろんのこと、私達日本人もそして外国から来られた方も、お互いをより良く理解するために必要だと思います。何をもって多文化共生の軸にするかは人によって違いますが、私は対策の緊急性のあるものとしてコミュニケーションが挙げられると思います。互いのコミュニケーションがおろそかになっているとお互い気持ちを理解してもらえないフラストレーションが溜まってしまい、心のキョリがいつまでも縮まらなくなってしまう。外国出身の方との有効なコミュニケーション手段である、優しい日本語を学校教育など身近な所でも広めていくことが一つの具体策かなと思います。
74	<ul style="list-style-type: none"> ・近年では、日本に留学・働きに来ている人が増加しているため。→日本語の分からない人など、困っている人が少しでも減るようにしたいと思うため。 ・国ごとの分け隔てをなくす一步になると考えるため。 ・より多くの人と関わり、自分の考え、理解の幅を広げることが大事だと考えるため。
75	静岡市の現状として、人口が減っている半面、外国から移住してくる人が増えているからです。少子高齢化が進む中、外国人の存在は、これからの将来必要不可欠な人材になってくると思います。しかし、彼らが日本に沢山のメリットを生み出してくれる一方、彼らが生活する中で様々な問題が出てくると思います。その問題は彼らだけでなく私たち日本人も関わりのあることです。彼らは文化や言葉、価値観によって、様々なトラブルを起こしてしまうケースが多いです。特に”言葉”は彼らにとって一番大きな壁だと思います。なので、互いの違いによって生まれる差異を認識し、共に助け合う事が求められると思います。
76	静岡市で多文化共生が必要だと思います。資料にもある通り、外国人住民は近年急増しているからです。私が小さかった頃に比べて、静岡市のまちで外国の方々を見る機会が増えました。コンビニエンスストアやスーパーなどでも外国の方を雇用している所をよく見るので、外国の方々が増加している今、多文化共生はとても大事だし、必要なことだと思います。
77	一つめの理由として、外国人の方が増えているため、日本に慣れやすいような環境をつくるべきだと思ったからです。二つ目の理由は、課題にもあるように、日本語に不慣れな児童や生徒にある不満を解消して、学校で十分な教育を受けさせることが、日本が受け入れたからには、絶対にすべきだと思ったからです。

78	多文化共生を進めることによって、日本のことだけでなく、他の文化を知ることができます。2回ほど私は外国人住民の方とお話させていただきましたが、国がちがうため、相手の文化に驚いたり、共通の趣味のお話をしたり、とても楽しかった思い出があります。そのように境なく、最近楽しかったこと辛かったことなどを話せるような距離になれたらいいなと思ったからです。
79	静岡県は人口は減っていますが、逆に外国人住民の数は増えています。そのため、外国人と関わる機会が増え今までの課題にある「差別」や「トラブル」も増えてきてしまうと思うので、より多文化と共生するための正しい知識がこれからは必要になってくると思ったからです。
80	静岡県（特に浜松、静岡市）は全国の中でも外国から来た方が多い県です。私の両親もその中の1人ですが、外国の方はその場所の評判を聞いて移住しにきます。もう十分静岡県は多文化共生を進めてくださっていますが、外国から来る方が多い県ととして、外国の方が安心してこれるように住めるように、他県よりもっと多文化共生を進めていければと思います。
81	なぜなら、静岡だけではなく日本全国で外国人住民が増えています。このグローバル化がすすんでいる社会では、文化や生活習慣の違い、無知や無関心により、差別してしまう人の存在があります。なので、異文化理解が必要だと思います。
82	国境を越えた人の移動が著しくなっている今、首都圏だけでなく、地域において多文化共生を進めていくことは極めて重要なことだと思う。
83	今現在、静岡市内で外国人住民数が急増してきている中、外国人に対する接し方や宗教などの価値観の違いなどをどう理解すべきなのか私自身でも疑問でした。しかし、その答えを見つけるにふさわしい考え方が「多文化共生」だと思っています。日本にいて、自分たちのまったく知らない異文化を知って相互理解すること、それがグローバル化が著しく進んだ現代では必要不可欠だと考えています。
84	近年、静岡市の外国人住民数は増加しているので、もっと互いの文化や価値観の違いを認め合いともに生きていく社会を築くことが大切だと考えます。2020年の静岡市外国人住民アンケートによると、普段の生活で外国人ということに差別されたと感じることがありますか。という質問に対して約44%の人が「ある」「ときどきある」と回答しています。この結果から、外国人に対する差別が依然みられることが分かります。そのため、外国人住民が安心して暮らせる静岡市のまちづくりが必要です。外国人住民への多文化意識の向上、やさしい日本語を使った情報伝達など静岡市で暮らす外国人が安定した生活を送れるための提供をするべきだと思います。
85	外国人住民が急増している中、4割以上の人が差別を受けて悩んでいたり、トラブルが起きているから。少しでも多くの方が困らないようにしたい。静岡市は住みやすい！！と思ってほしいから。
86	今の日本には、外国人技能実習生等で日本に住んでいる外国の方が多くいます。そのような中、日本人と外国人がお互いの文化を理解し、尊重し合わなければ、より良いまちづくりはできないと思うので、静岡市で多文化共生を進めることは必要だと思います。
87	多文化共生。それは、性別・年齢・国籍、それらを混合して違和感なくすごしていけること、それはとても素晴らしいことだと思う。しかし、今の静岡市ではまだ完全にそれを果たせていないから、課題として挙げられている。たまに見かける外国人は、イキイキとしている人がいれば、まるで他の生き物を見る目でにらみ、おびえる人もいる。自分的には、前者が増えることを願っている。せっかく同じ人間なのに、大半の人と違う部分があるというだけで、警戒され、小さくなられるのを見たままなのは嫌だ。多文化共生は進めるべきだ。後の日本のために。

88	最近よく町で外国人を見かけたり、コンビニなどで外国人労働者を見かけたりして、静岡市に住む外国人の人口も増加しているようです。世界でもグローバル化も進んでいるので、多文化共生は絶対に必要なものだと思います。
89	冊子に書いてある通り、近年、外国人住民の数は急増中です。85の国籍の方が静岡という場所を選び、生計を立ててくれようとしています。静岡の経済社会に少なからず貢献してくださっているということです。それなのに、私たちはそれを受け入れず、何もしないというのは、受け入れる方として、間違っているでしょう。異なる文化があるからこそ、私たちは世界をいい意味で変化させることができます。その代表的な市にもなれるように、多文化共生を進めていく必要があると思います。
90	ニュージーランドへ留学していたとき、ニュージーランドでは色々な国の方がいたけれど、トラブルはほとんどなく、むしろ友好的に話しかけてくれて、日本と比べると、ニュージーランドの人と外国人の仲が良いイメージでした。日本でも、静岡市でも、まだまだ外国の方を見ると委縮してしまう人が多いので、必要だと思います。
91	現在グローバル化が進み、今まで以上に世界が身近になっています。日本人だけではなく誰もが安心して暮らせる、自分らしく生活できることが必要だと考えているからです。言語や文化、生活習慣、そして国籍の大きな壁を乗り越え、互いを認め合うこと、それが一番重要な”多文化共生”の本質だと思います。

2 「思わない」と回答した人の理由 1件

No.	意見の概要
92	労働者、留学生、ブローカーのために、これ以上公的なりソースを使用するのはいかなものか。

[設問2] 条例案骨子への意見について (問: [資料2]「静岡市多文化共生のまち推進条例」案の骨子について、意見をお書きください。)

1 条例案骨子への賛成意見 17件

No.	意見の概要
93	ぜひ進めて下さい。
94	非常に良いと思う。
95	とても良かった。
96	少子高齢化の今、外国人の年齢構成を見て、外国人の力は年齢構成を補う形でもますます必要になると思った。彼らのお陰で私たちは生活できている、来日してくれてありがたい。外国人にとっても来日して日本で生活していくことがそれぞれの人生にとって大切な意義があるように望む。
97	<p>I can not agree more, it looks absolutely brilliant and hit the nail on the head. However, religious freedom is apparently missing in the content. Despite that still a wonderful initiative without a shadow of a doubt.</p> <p>[日本語訳] 大賛成です。大変素晴らしく、核心を突いていると思います。内容には宗教的自由を含めていないようですが、それでも、これは間違いなく素晴らしい取り組みです。</p>
98	<p>I think it's a fantastic idea. I think being accepting of foreigners and educating people on what is acceptable behavior can not only help everyone get along better but also avoid situations that could make Shizuoka look ignorant or out of touch. Due to the internet, international news and TV, the world is becoming less forgiving to ignorance about cultural awareness and I would hate to see Japan lag behind and become scrutinized due to ignorant behavior. Major comedians, idols, and politicians have already come under fire due to inappropriate behavior or verbiage towards foreign communities. In this day and age it's almost inexcusable, and even among those that are normal people, it makes Japan as a whole look bad. Many foreigners have YouTube channels, TikTok, and Instagram, and they tend to get a lot of followers. They are already shining a light on their own experiences, and everyone can see in the comments how other foreigners react to it and how many Japanese people are still ignorant of this situation and just say it's Japanese culture to be ignorant or racist and that foreigners need to just accept it. I'm not saying that it's everyone but it happens enough to be noticeable.</p> <p>[日本語訳] 素晴らしいアイデアだと思います。外国人を受け入れ、人々に認められる行動について教えることで、皆がより仲良くなるだけでなく、静岡市が無知で疎い市だと思われるようなことを防ぐと思います。インターネット、国際ニュースやテレビの影響で、世界は文化的無知に対してより厳しくなっています。日本が時代の変化についていけず、無知な国だと思われたいくありません。有名なお笑い芸人、アイドル、政治家はもう既に外国人に対しての不適切な行為や発言で批判の的になっています。今の時代、こういった行動は大変許し難く、一般人が同じことをしても日本全体が悪く見られてしまいます。多くの外国人はYouTube、TikTok、Instagramをやっており、フォロワーが多い方も少なくありません。彼らは自分たちの経験を世界中の人々に発信しており、コメント欄では、他の外国人の反応が分かります。しかし、状況を把握しておらず、「無知や差別は日本の文化なので外国人はそれを認めるべき」と言っている日本人も数多く見られます。日本人が皆そう言っているわけではありませんが、非常に顕著です。</p>

99	この骨子は、ハンディを減らし、情報を与え、文化を教え合う機会の提供など広く網羅している。助け合いの精神で協力していけたらよい。
100	I think it is overall a good and achievable ordinance. [日本語訳] 全体的に良い、達成可能な条例だと思います。
101	概ね賛成する。
102	骨子としてはこれで良いと思う。
103	骨子案はよいと思います。
104	目的も計画もどれも素晴らしいと思います。
105	私の会社(工場)には、ベトナムからの研修生が多くいます。特定技能に進み、結婚し、日本に住みたいと思っている人も多いので、静岡市が先んじて対応することは、とてもいいと思います。
106	他県にはない、静岡ならではのもてなし、もしくは静岡のやさしさが垣間見える施策ばかりで良いと思います。
107	グローバル化が進んでいる今の社会では、外国人住民が増えていることにより、外国人との交友関係は必要不可欠になっています。なので外国人だけではなく、日本人と外国人がともに住みやすい環境を作り、そして異なる文化や分かち合い、学び合うことは多文化共生の1つの目標だと思います。私は、多文化共生の講座でやった「やさしい日本語」を活かしたいと思います。そして、地元の人と外国人住民をあつめて、一緒に学び合い、新たな発見を見つけていきたいと思っています。その発見によって、他者を思いやり、助けあえるような新しいルールやサービスを生み出していきたいです。
108	親世代やさらに上の祖父母世代は、外国人に対して少し距離があると感じます。私たちの世代は多文化共生が当たり前という考えで勉強を行ない、留学やwebでの交流などを通し、身近な存在となっています。世界でもそのような流れが広まっており、静岡市がその「第一歩」となれば、とても嬉しいです。
109	目的にしたがって、それを行動に移し、全てが良い方向にいければ本当に静岡市って今よりもっともっと優しい楽しいまちになると思います。

市の考え方分類：その他意見

2 条例制定への反対意見 1件

No.	意見の概要
110	条例として定めることには反対する。なぜなら『多様性を許容する』ことを強要することは『多様性を許容しない』生き方を否定することであり、中立であるべき行政の範囲を踏み越えているからである。

市の考え方分類：その他意見

3 「定義：多文化共生のまち」への意見 2件

No.	意見の概要
111	文化の違いを理解して尊重していくことは必要不可欠だと思いました。多文化共生のまちを市民が協力して作っていくという目的に合っている定義で良いと思いました。
112	「すべての人が、互いの文化的ちがいを尊重し、助け合い、学び合い、一人ひとりの個性を活かして、ともに行動するまち」という「多文化共生のまち」をしっかりと決めて定義しているのが良いと思いました。

市の考え方分類：その他意見

4 「基本理念」への意見（語句・表現に関するものを除く。） 2件

No.	意見の概要
113	基本理念について、私たちが目指すべき多文化社会が明確でとてもよい目標だと感じました。特に、「誰一人取り残さない」やポイントにあった「一人ひとりの個性を活かした」という点は、多文化共生において最も重要で、かつ実現するには難しいことだと思います。なぜなら、全員の意見をすべて受け入れるということは、不可能な場合も多いからです。それを、どう解決していくかという点が少し気になりました。
114	基本理念に記されている”平等で人権が尊重され”という部分ではSDGsと深い関わりを感じ、貢献している姿勢が良いと思いました。

市の考え方分類：その他意見

5 「基本理念」等への意見（語句・表現に関する意見（「静岡人」を除く。）） 6件

No.	意見の概要
115	「基本理念」の説明文章について 「すべての人が」、平等で人権が・・・「すべての人が」幸せを感じるこのことのできる・・・ 1文の中に「すべての人が」という語句が2回使われているのに、少し違和感を感じました。
116	基本理念について内容については賛成です。 「平等」というのは、何において平等なのか、国籍や民族などの違いに関わらず平等という意味なら、国籍や民族などで差別されず、平等で…の方が自分は理解しやすいです。
117	目的の所を書いてある社会的包摂という単語は、聞きなじみがなく、意味がわかりづらかったので括弧をつけて簡単に補足したり、単語の前に説明をつけたりして、基本理念の所では説明を省略した方が、上から順に読む時によりわかりやすい骨子になるのではないかと思います。

118	<p>I think the majority of the "main contents" are well thought out and come from a place of genuine love for it's residents. If I were to give any constructive criticism or have any questions about it, I would say that "no one will be left behind" is a bit vague. I can't understand what it means exactly. Does it mean no one's problems will be ignored? But overall I agree with and am very happy with the rest of the statements and am overjoyed at seeing this kind of ordinance being thought about in Shizuoka City.</p> <p>[日本語訳] 「案の骨子」の大部分はよく練られており、住民への愛が伝わってきます。しいてあげるなら、「だれひとり とりのこされません」というのはちょっと曖昧だと思います。それが何を意味するのかよく分かりません。誰の問題も無視されないということですか？しかし全体としては、非常に満足し、賛成しています。静岡市でこういった条例が検討されているの姿を見て、とても嬉しく思います。</p>
119	<p>この資料で「多様性」という言葉を使っていることについて、もう少し深く検討する必要があると思います。下のページが詳しいです。 「多様性」というコトバで混乱しないために https://note.com/horishinb/n/nf13476528fdd 「多様性の尊重」というスローガンは捨てた方が良い件 https://note.com/horishinb/n/n99e0a9e9d7a3 このページに書かれているように、「個人」が尊重される状態と、「多様性」という“ある状態”を指す言葉では、意味が違います。むやみに「多様性」という言葉を使うと意味が通じないことがあります。この点に注意してほしいと思います。</p>
120	<p>「多様性を活かし」より「多様性を活かした」とした方が、持続可能なまちづくりに係るような気がしました。</p>

市の考え方分類：条例案には反映しないが、今後の取組の参考とする

6 「基本理念」等への意見（語句・表現に関する意見「静岡人」） 8件

No.	意見の概要
121	<p>I really loved reading about the ordinance. Especially the most important point, "Regardless of nationality, we are all Shizuoka-Jin." I cried when I read that. It really touched me because I have been living in Shizuoka for almost 6 years now, so Shizuoka is my home, but even now, sometimes I feel like an outsider. I want to feel like I am welcome here all the time and that Shizuoka can be my home just like it is for everyone else.</p> <p>[日本語訳] 条例について読むのが大変楽しかったです。特に、一番大切なのは「国せき などが ちがっても、みんな「静岡人」です」。これを読んで泣きました。とても感動しました。静岡に住んで6年になるため、静岡は私のふるさどですが、今でも部外者（外人）のように感じる場合があります。私も他の人と同じように、いつもここで歓迎されて、静岡をふるさとと呼んで良いように感じたいです。</p>
122	<p>「静岡人」という言葉を使うことは疑問を感じます。国籍や民族で差別しないということであれば、国籍、民族のような人を分けるような考え方は、避けるということがこの条例の主旨だと思います。この言葉で静岡市に住む人たちはひとつになります。市の外に目を向ければ、「静岡人」と、そのグループから外れた「非静岡人」というような、新たな区別を生み出すだけではないでしょうか。地球上の人間がひとつになることを目指すべきと考えます。</p>

123	ポイントに挙げられている「静岡人」という言葉の語感が強すぎて、排他的なニュアンスを含むと誤解されないか心配です。あえて「静岡人」という言葉を使わないで、その都度「ともに静岡市で生活する仲間」と言えば（書けば）よいのでは。
124	「外国人」「日本人」で分けるのではなく「静岡人」としてひとまとまりに考えるのはとても素敵だと思う。
125	「外国人」「日本人」と分けることなく、差別しないという意識や、皆が”静岡人”と考えるというところが、地元の愛を感じられるものだと思います。
126	”外国人”と”日本人”を分けずに静岡人という視点をもつという理念が、差別をしないという意思表示のようで素敵だなと思いました。
127	皆が「静岡人」として安心・安全に暮らせるという理念が良いと思います。
128	定義に書いてある内容は理解できる。「すべての人が、互いの文化の違いを…」、こういうまちは自分の中でも理想的だ。しかし、基本的理念は少し難しい事を言っているように感じた。「国籍や民族などで差別されず…」、これは自分の周りでもハーフの知り合いや、外国人のいところが居て実感しているから、理解できる。難しいと思ったのはその後で、「誰一人取り残さない」や「すべての人が幸せを感じる…」、これらは根底にある基本的な考え方として、前向きなだけであり、無責任な言葉に思えてしまった。私の曲がった考えは、その後のポイントでひっくり返された。「外国人」「日本人」まとめて「静岡人」（ともに静岡で生活する仲間）、としたらしい。ほう、と思った。上手いことを言ったなあと。確かにそう考えると、最初の言葉はまだ、「静岡に住む外国人も含め…」と、「ついで」のように感じたが、「静岡人」でまとめたから、1つのチームとして、一体感を増すことのできる言葉にとらえることができた。

市の考え方分類：条例案には反映しないが、今後の取組の参考とする

7 「市の責務」への意見 1件

No.	意見の概要
129	条例案においても、施策の柱の一つとして教育の充実がかかげられており、学校教育と生涯学習の取組を充実することが目標とされています。しかし、その例としてあげられているのは、マイノリティの側が日本での生活に支障を生じさせないようにするための教育です。条例においては、さらに進んで、静岡市の責務として、初等教育からあらゆる段階での多文化を理解するための教育を実現することを盛り込むべきです。

市の考え方分類：条例案には反映しないが、今後の取組の参考とする

8 「市民の責務」への意見 2件

No.	意見の概要
130	責務を記載しているが、「外国人住民の責務」はあるのか？あるとすれば、市民の責務に該当するのか？明確にした方が良い。受け入れる側だけが努力すべき。という風に取り取れる。責務は平等にあるはず。
131	多文化共生を必要だと考える人もいれば、面倒だと考える人もいますが、その状況のなか、市民の責務をどうやって果たさせるのですか。「外国人お断り」を掲げるところはどうやって改善するつもりですか。住民の理解を得て、助け合いをしてもらうにはどうするのですか。

市の考え方分類：条例案には反映しないが、今後の取組の参考とする

9 「事業者・団体の責務」への意見 3件

No.	意見の概要
132	I believe the ordinance is very important and needs to be passed. The most important point to me is that no one will be discriminated against due based on nationality, ethnicity, etc. I think that point needs to be emphasized and enforced properly, especially to businesses that would refuse service, refuse to hire or discriminate in the workplace. I think the contents are very good and grant basic human rights that many foreigners don't have in Japan. [日本語訳] この条例は非常に重要であり、策定される必要があると思います。 私にとって最も重要な点は、国籍や民族などで差別されることはないということです。特に、サービスを拒否したり、雇用を拒否したり、差別したりする企業には、この点を強調し、適切に実施する責務を負ってもらう必要があると思います。 内容はとても良く、日本で多くの外国人が持っていない基本的人権を与えてくれると思います。
133	労働条件などは市で職種によって一律の基準を作り、必ず守らせるくらいの強制力のある仕組みがあってもいいと思う。
134	当自治会は環境保全（日本人の出すゴミの問題）で手一杯なので、これ以上負担をかけないでもらいたい。

市の考え方分類：条例案には反映しないが、今後の取組の参考とする

10 「施策の柱」全般への意見 10件

No.	意見の概要
135	「生活環境の整備」「地域における交流促進」「人材の育成」など市民生活の基礎となる、自治会との連携がとても重要であると思います。「多文化共生のまち」の推進に向け、自治会との連携を強調したものにしていってほしいと思います。
136	地域住民の組織である自治会としては「防災」「地域環境の保全」などが共生を考えやすいと思います。施策の柱に、「市と外国人住民」の施策でなく「地域住民と外国人住民」の施策を入れられないでしょうか。
137	施策の柱の「教育の充実」や「地域における交流促進」でなぜ外国人住民は近年増加しているのかなど、外国人住民が日本のルールや伝統を理解するのだけではなく、私たち日本人側も外国人住民側の背景を理解することが必要だと考えます。そのために、日本人の人々が外国の文化について勉強する場が必要だと考えます。
138	身近に住んでいる隣近所、自治会のコミュニケーション作りが大事。（教育）（交流促進）（育成） <ul style="list-style-type: none"> ・災害時に助けあう事。 ・日頃のあいさつ、信頼関係を保つ事。（一番大事な事） ・学校（子供）を通して理解を深める。 子供－友達を作る－親の交流－地域の交流 <ul style="list-style-type: none"> ・情報の収集方法 誰に相談するか。
139	静岡市に住んでいる外国人の方が、静岡市のルールを良く理解できてなくて、他の日本人に悪い印象をあたえてしまうことがあります。日本人の友達ができず、ルールなどについても聞けなかったり、相談できなかったりして、せっかく日本にきて日本らしい体験をしたことがないという話もききました。ですから、私は「教育の充実」と「地域における交流促進」に賛成です。
140	条例についての4つの「施策の柱」がとても良いと思いました。静岡市が人々の助け合いや学び合いから安心・安全に暮らせるようにどのような取り組みをしていくか、がこれから大切になっていくと思います。施策の柱の1つである「地域における交流促進」では、外国人と日本人が交流する会を開催する案を挙げます。私は先日、インドネシア人の技能実習生の方と対話をする機会がありました。普段の生活で外国人技能実習生の方との交流など経験がありませんでしたが、お話を聞いているなかでインドネシアの文化や習慣など、日本と異なる様々なことを知ることができました。説明をするのに難しい部分もあったようですが、自分の知っている単語を使い、時には辞書を引きながらジェスチャーを交えて熱心に話す外国人技能実習生の姿が印象的でした。このような日本語交流会を静岡市で促進することにより、外国人と日本人が相互理解する場をつくり多文化共生のまちに繋げていけるのだと思います。
141	とにかく、外国人に対して日本の文化を理解する、日本人を理解するということが行きやすいが、外国人に対してだけでなく、日本人は外国人に対して日本に住んでいるんだから、ここは日本だから「日本人のようにする」というような考えになりがちなので、そうではなく「外国人は外国人のまま受け入れる」ということをきちんを我々日本人側が理解してもらうことも施策の中に必要なのではないかと。

142	「知らない」ということは、「おそれ」を伴います。例えば、多くの日本人が、イスラム文化のことを理解しないまま、いわゆるイスラム過激派の行動による印象から、イスラム教徒に対する嫌悪感を覚えています。しかし、イスラムの文化を少しでも学べば、イスラム過激派はあくまで極端な思想であり、イスラム文化の基本は、私たち日本人と多くの価値観を共有できるものであるということが理解できます。
143	他宗教の習慣を体験する（ラマダンなど）。自分が経験しなければ分からないこともたくさんあります。経験することで物語の意味を理解することができ、他宗教を受け入れることができるのではないのでしょうか。
144	他の都市や地域の取組も参考にして良いところ、おもしろいことをとり込んでゆけば良いと思う。悪い影響や気まづくなることがないよう情報を得ておくことも大切と考える。

市の考え方分類：条例案には反映しないが、今後の取組の参考とする

11 「生活環境の整備」への意見 17件

No.	意見の概要
145	「安心」「安全」な生活を送るために必要な取組を行う。（生活環境の整備）
146	生活環境の整備に必要な取組を行うのはとても大切だと思うし、どんどん促進させるべきだと思うが、取組をどれだけ整備しても、実際に利用してもらえなければ意味はないので、宣伝の仕方に工夫が必要だと思う。
147	多くの外国人の方は労働を目的とした技能実習生です。もし、日本語が分からないまま、働くとしたら、慣れるまでにとっても大変だと思います。なので技能実習生に向けた労働環境の整備が必要だと思います。労働について、いつでも相談できるサービスが必要だと思います。
148	安心施策の就労支援の充実、特に留学生の就職支援を市の施策として推進してほしい。
149	4. 119番通報の多言語化（110番） 緊急時の連絡もマルチな言語に対応できるコールセンターなどの整備
150	安心できる生活を送るために必要な取組を行うことに賛成です。 地震・津波についての正しい知識・情報を伝えるとともに、自助・共助について理解していただく取り組みが必要だと考えます。
151	自然災害に対してもっと周知し、安全対策を講じていただきたい。
152	内容的には賛同できます。 災害等はいつ起こるか分かりませんので、案だけではなくできるところから直ぐに実施することが大事と考えます。

153	「静岡市多文化共生のまち」を作るために条例を新たに作るのは、これからの社会にあたって大切なことだと思います。特に私は防災のわかりやすい情報を提供する取組を進めるべきだと思います。理由は、阪神・淡路大震災で多くの外国人に情報が行かず、尊い命がなくなってしまった過去があるからです。そのようなことを2度とおこさないように、今のうちから「やさしい日本語」や外国語をもちいて、情報を正確に提供できる準備をしていた方がよいと思います。また、そのことを理解する人を増やすべく、講座や授業をやるべきだと思います。
154	「災害」というワードにも着目して考えてみました。もし、地震などの災害時に難しい日本語で指示等が出たら、外国人はどうしたら良いか分からず、混乱してしまいます。そのため、前もって災害を中心とした外国人と日本人の交流会を開いたらよいと思います。日本人は外国人に、やさしい日本語を使って災害時にはどうすべきなのか、また災害時によく使用する言葉も、やさしい日本語にして教える、という交流会です。災害時にはどうしたら良いか、分かるのにプラスして、外国人と日本人でコミュニケーションもとることができるので、とても良いと思います。そのためには、日本人はやさしい日本語を使わなければならないので、時間と機会と場所があれば、日本人のみのやさしい日本語教室を開くのも1つの案です。最後に、災害だけに限らず、ゴミの分別など、外国人に向けたやさしい日本語と、より分かりやすいピクトグラムで表したポスターも貼っておくと、もっと外国人も住みやすくなると思うし、安心して生活できると思いました。
155	日本は災害がよく起こるため、特にあまり災害のない国から来られた人は避難や防災について戸惑うことが多いと思います。なので、今はあまりコロナ禍で難しいですが、地域で行う防災訓練に外国人の方も一緒に参加して、避難の方法、避難地の確認、また非常食の配布などを行い、一緒に防災について知識を増やしておく必要があると思いました。
156	外国人住民の相談体制が、日本人に対する相談体制と変わらずに、誰もが使いやすいようになるとよい。
157	最近よく聞く言葉に「決して、断らない」「まるごと」等、あります。「どこに相談したらいいの？」ということのない制度設計を望みます。
158	コロナウイルスに関する情報など、やさしい日本語だけでは対応不可なもの →通訳人材を増やして対応する、通訳ボランティアなど。
159	「情報を必要としている外国人住民に、いかにその情報を届けるか」という点は私自身も、多文化共生について調べる中で重要であると考えようになりました。外国人住民に、相談窓口や、魅力的な交流イベントを最大限活用してもらうためには、情報発信の方法について条例または多文化共生推進計画に盛り込むことも、さらなる多文化共生推進の意思表示になるのではないかと考えました。
160	「やさしい日本語」の普及を、市職員だけでなく、市民全体に普及させる。
161	やさしい日本語の普及 外国出身の方々の主な言語を記載した看板などの設置も大事だが、やさしい日本語で記載された案内板も必要だと感じる。

市の考え方分類：条例案には反映しないが、今後の取組の参考とする

12 「教育の充実」への意見 16件

No.	意見の概要
162	<p>骨子内の「基本理念」、「市民の責務」、「事業者・団体の責務」の欄に記載されている「差別をしない」という考え方は多文化共生をする上で最も重要な事であると思っています。しかし、差別自体をなくすためには市民全員の偏見やステレオタイプを取り除くことが最初のステップなので、簡単ではありません。そこで、この条例内で一番力を入れるべきなのは外国人への教育の充実、というよりかは静岡市民全員が「外国人を1人の日本人とみなす」ための教育だと考えています。もちろん、外国人に対する福祉や教育の充実なども大切です。しかし、「多文化共生」を成り立たせるためには、市民全員が考えを改めることだと思います。これがないと、この条例内で重きをおいている「共通の考えや、市・市民・事業者や団体の約束事」などを決めても、それを実行できなければ、条例自体が無能になってしまう可能性が高いからです。</p>
163	<p>施策の柱である教育の充実について、重要なことであり推進していただきたいと思う。</p>
164	<p>施策の柱の中で特に「教育の充実」が重要だと思います。互いの国のルールの違い等を学ぶことで双方にとって住みやすい環境が築いていけると考えます。</p>
165	<p>文化的な違いを静岡の人にも伝えることを増やした方がいいなと思いました。特に高齢者は昔ながらの考えで、差別しやすいと聞いたことがあるので、高齢者の方が参加しやすいことをした方がいいと思いました。教育で必要な教科書には、ふりがなの他に言葉の意味を多く入れておいたほうがいいなと思いました。</p>
166	<p>コミュニティと併せて、子女受入の学校確保も考えていただきたい。〇〇（学校名）が該当するとも聞いていますが、あまり知られていません。</p>
167	<p>As for the first point, education is more akin to what you mention in your paper. I imagine this will be done through some workshops at schools, continued (and perhaps better) implementation of ALT programs, and perhaps other public multicultural events hosted by the city. This path is just as important as the other one, but it is much more vague and hard to track progress from. There is no hard change, and everything happens in the background. No result is understood until perhaps you conduct another future survey about "discrimination" and the like.</p> <p>〔日本語訳〕 1に「教育」に関しては、市が述べていることに似ています。これは、学校でのワークショップ、ALTプログラムの継続的な（更に質の良い）実施、また市が主催する公的な多文化共生イベントで実現させると思われます。この方法はもう一つの方法と同じくらい重要ですが、非常に曖昧で、進捗状況を確認するのが難しいです。大きな変化がなく、全て目立たないところで行われます。恐らく「差別」などについては、今後別の調査を行うまで、結果は分からないと思います。</p>
168	<p>一部において日本語の学習に意欲のない外国人や、日本語教育をしない企業があるが、改善すべきです。多文化共生の必要性や、異なる民族を受け入れる心について、小さい頃から教育させることが必要です。</p>

169	<p>「4つの施策の柱」に表記されてあるように、学校教育の取組を充実させることはとても重要だと感じます。私は小学生の頃から多文化という考え方を定着させることにより、静岡市が更に住みやすい町になると思います。私が幼い頃は、外国人住民数がそれほど多くなかったので、多文化という考え方を深く教わる機会がありませんでした。ですが、時代は変化し、今や静岡市には、1万人を超える外国人住民が生活しており、増加傾向にあります。幼い頃から教育し、年齢層関係なく「多文化共生のまち」という考え方を意識することによって、多くの静岡人が快適に暮らせるようになると思います。道徳の授業や、日常生活、特別活動などで多文化に触れる機会が増えていけば良いなと思います。もちろん、他国籍の方に対する日本のルール講座や、日本語教育は非常に重要だと思います。なので、私たち日本人も、理解し、受け入れていくことを早い段階でしていく教育方針にすることで、よりよい町を築きあげることができると思います。</p>
170	<p>どの計画もとても大切であると感じました。特に私はまだ高校生であるため、教育の充実に力を入れてほしいと感じます。子どもが次の世代を作っていく人になります。外国人が学生の時期に充実した日々を過ごすことが出来たら、将来の社会への良い影響に繋がると感じます。私のクラスメイトに最近アメリカから日本に来た子がいます。彼女は日本の生活に対して興味深いと思ってきていて、色々な事を知りたいとたくさん学んでいます。ですが、具体的な例としてお店でカードの使い方が分からないなど、少し困る場面もあるようです。お店でやさしい日本語を使う事を意識したり、英語が話せたりする店員さんを増やし、対応可能なお店が増えたら、より多くの外国人が楽しく、心地良く生活できるのではないかと思います。あとは、私たちの意識の問題で、受け入れる心をどれだけ持つかだと思います。外国人との交流の場を増やせば、受け入れる心が作れると感じます。そして、どんどん豊かな静岡になったら嬉しいです。</p>
171	<p>”教育”についての施策に特に賛成の意をもった。現在、日本で学びたいけれど、学べる環境にない、”優秀な学生”が世界にはたくさん居ると聞いた。それはとても勿体ないことなので、静岡市では外国籍の市民が積極的に学べるように、日本語講座を気軽に受けられるようなサポートのシステムを導入していることが大事だと思います。又、学校でも総合の時間などで、海外の日本とは異なる文化を紹介し、日本の文化をつたえるだけでなく、日本の皆も、異文化について興味関心をもつ機会が必要だと思った。</p>
172	<p>今、静岡に南海トラフ地震がいつきてもおかしくありません。地震がおきた際に言語の壁があると、外国人の方が避難に遅れてしまったり、適切な対応ができない可能性が考えられます。そこで、「教育の充実」は非常に大切なことだと考えました。</p>
173	<p>施策の柱の中でも、「教育の充実」に一番力をいれた方がいいと思います。海外から、家族全員で日本に移り住んでくる人も少なくないので、彼らの子ども達が学校などで、しっかり勉強できるような環境を作らなくてはいけないと、まず思いました。また、日本で勉強するのに日本語をまず身につけないといけません。近年SNSなどでのいじめも年の小さい子ども達でも広がっている事から、日本語の教育は徹底しなくてはなりません。また、日本語を学ぶにあたって、日本の文化や生活習慣、ルールを同時に学ぶことで、理解がより深まると思いました。そこで、私が通っている学校（〇〇（学校名））では、「多文化共生サポーター」という名で、日本で働いたり生活している外国人の方を支援できるよう学んでいます。中でも、言葉の壁をなくすために、まずは「やさしい日本語」という日本語で会話をすることが大事だと教わりました。彼らが語学力をしっかり身に着けるには多くの時間と人材・工夫が必要であるけれども、それを使えば、彼らも簡単に理解するようになると思います。また、学問だけではなく、生活面でサポートできるよう、実際に外国人技能実習生と意見交換をしたりしました。大人ではなく、私のような学生など、若い人材が活動することによって、彼らの様々な壁は少なくなっていくと思います。</p>
174	<p>日本に来た外国の方々には日本語や日本の文化に慣れてなくて、日常生活も大変だと思うので、教育の充実の「日本の生活習慣・ルールなどの講座開催」「児童生徒や生活者への日本語教育の推進」は、特に外国人の方々の助けになると思います。</p>

175	相互理解を深めるためには言葉が理解できることが第一だと考えます。日本人が外国語を理解する必要もありますが、ここでは日本語を理解している人が圧倒的に多いため、日本語が母国語でない方の日本語教育が第一かと思えます。浜松などでは、ブラジル人向けの学校もありポルトガル語で学ぶことができるようですが、そのような学校で育った方は日本語の理解が中途半端となり就職等で苦労されると聞きます。また、そこで断絶が起こります。母国語が日本語でない方も通常の小学校に通えるような環境を整えることが長期的には多文化共生につながると考えます。
176	日本語教育は大切だと考えます。小中学校でのこども達への日本語教育に予算をもっとつけて欲しいです。
177	ボランティア、学習支援の開催 市民が先生として活躍できるような日本語教室などの開催を増やす。ボランティア証明書などの発行をし、モチベーションが上がるようにする。

市の考え方分類：条例案には反映しないが、今後の取組の参考とする

13 「地域における交流促進」への意見 15件

No.	意見の概要
178	「労働」や「生活」の面だけでなく「地域における交流」の面でも「日本文化を体験するイベント」や「交流会」などの関りを持つための機会が提案されていたのも良いと思いました。外国人住民の子ども達が日本の子ども達と関わる機会を設けても良いと思いました。「やさしい日本語」の修得は案外難しいです。また子ども同士遊ぶ際や教え合う時などコミュニケーションをよく取りますが、その中で外国人の子ども達と関わる機会は他者に分かりやすく伝えるにはどうすれば良いかを考えるタイミングにもなると思えます。
179	役所などの相談窓口で英語だけでなく、他の言語も話せる方がいらっしゃるととても心強いと思えます。しかし、地域での交流は近頃、日本人だけでなく外国人もなかなか集まらない状況です。私が参加したことのあるものだけで判断してしまっていますが、目立つ場所で開催していないこと、室内でやっている場合中に入りづらいこと、ポスターなどにインパクトが無いことなどが挙げられます。参加する人が少なければ、交流会の意味がありません。コロナ禍で厳しい状況だと思いますが、いつかまた沢山の人と交流できる日を心待ちにしています。
180	わいわいワールドフェアの拡充 静岡市内だけに限らず、広く他の市町の参加を希望します。市町によりイベント開催がばらばら（あたりなかつたり）です。静岡市が手本を示して県レベルのイベントにしてほしいと思えます。
181	留学生との座談会 産学官の連携を深めて欲しいと思えます。産業界において、人手不足の解消、大学等は知名度のUPにつながります。簡単なイベントやフェスと兼ねる、マルシェと兼ねるのはいかがでしょうか。
182	地域のお祭り、交流会 国別のプロの楽団を誘致して質の高いお祭りにして、多くの市民を集客し、多文化の浸透を図ってみてはいかがでしょうか。クッキングスクールにて国の料理をみんなで作って食べる会、家族での参加も見込めます。

183	地域の交流推進において、外国人の方と一緒に授業を受ける機会を設けてみるのは良い。学生でも外国人の方と授業を通して、仲良くなることができる。
184	地域における交流促進において、記載されているイベントや交流会のような一過性のものだけでなく、最も基本的な「あいさつ」を入れた方がよいのではないかと。「あいさつの励行」など日常的に誰もが簡単に交流できる施策を入れるべきかと。
185	また、外国人や私たち日本人にとって言語の壁はとても大きいものだと思います。そこで、地域における交流促進に記載されていた、文化体験イベントや交流会などは、とても有効的な案だと考えました。言葉の壁は、相手の話していることが全てわからなくても、正直壊せると思います。例えば、ゲームを通じて、“楽しい”という気持ちが一致することで壁が少しずつ薄くなっていくと私は思います。他にも、クリエイティブな案を組み入れてもよいのではないかと感じました。
186	地域における交流はもちろん大切だが、そういう機会に出向いてくれる人はもうすでに「多文化共生」というものに少なからず関心を持っていたり、理解のある人が大いと思うので、トラブルに関連しがちな「多文化共生」という言葉に縁のない人たちに聞いてもらえるような場を用意することも必要だと思う。 (外国人→日本人へのアプローチばかりではなく、日本人→外国人のアプローチの機会を増やす。)
187	まずはお互いの文化を理解することが大切です。なので、施策の柱の地域における交流促進の内容はとても良いものだと思います。
188	外国人の住民調査の中で約半数の人が差別を感じると回答しているというデータから、私たち日本人が普段持っ持っている外国人はこうだという先入観や偏見から、悪意を込めず発した言葉や行動で、外国人住民を傷つけてしまっている可能性があります。そのため、私は「多文化共生のまち」の推進のための施策として、地域における交流促進に力を入れるべきだと思います。例えば留学生や技能実習生などの方と交流してみたいけれど、どうすればいいかわからないという人たちが交流できるように、ホームページやポスターでイベントの開催をお知らせすれば、より多文化理解が深まり、外国人住民・日本人住民のお互いの事情や気持ちを知ることができると思いました。そうすることで、差別されたと感じる外国人住民を理解しようとする日本人が増えてくれると思います。
189	地域で開催されるイベントにはぜひ私も参加させていただきたいです。「多文化共生」のために、自分にできることを行っていきたいと思っています。
190	施策の柱にある「地球における交流促進」。これが多文化共生において、重要なポイントであると私は考えます。私の家のマンション（自治会）では、交流活動が盛んで、住民みんなが、かなり仲が良いです。交流する機会を各自自治体がつくることで、「共生」の要を築けることができると私は思います。
191	地域における交流促進の外国や日本の文化を体験するイベントや交流会などは、外国人住民の方が日本に慣れることや、日本人が多文化を理解する良い機会になると思います。ですが、このようなイベントは沢山の静岡市の人たちが参加しないと意味がないので、沢山の人が集まってくれるように、情報発信を積極的にしたり、学校全体や地域全体で参加したりできるようにしたら良いと思いました。

192	「地域における交流促進」についてです。私達学生も一緒に交流できるようなイベントがほしいです。コロナ禍の時期ということもあり、会うことも難しく、話すことも厳しいですが、そのような施設、または行事が欲しいと思いました。直接でなくても、リモートを使用したものであったり、動画やポスター、本など自分達の文化、学校、人々、街なみなどを紹介できるものを作って交換してみたいです。実際に外国人住民の方と話してみると、好きな食べものであったり、飼っているペット、旅行のことなどをたくさん話してくださいました。なので、日本のことはもちろん、自分のこと（好きなことや趣味、好きな作家さんなど）を語れる会、話すことのできる場所、パフォーマンスなどが得意であったら、そのようなことができるイベントもほしいと思っています。
-----	--

市の考え方分類：条例案には反映しないが、今後の取組の参考とする

14 「人材の育成」への意見 4件

No.	意見の概要
193	近い将来、多文化共生に向けてなにか(グループなど)をつくりたいと考えておりますが、そのようなアイデアを持っているのは私だけではないと思います。ただ、これまでそうだったように結局はボランティア頼みで、身を削ることになりかねないという懸念によって二の足を踏んでいるのでは、と想像しております。日本語指導員なども有償ではありますが、フルタイムではありません。応募者はそれを承知で臨むのでしょうか・・・それでいいのかと思ってしまう。つまるところ支援や保障がわかりやすければ、加速することは間違いないかと。
194	外国人に対して、良い感情を持たない人がいるのは、ある意味では仕方がないことです。そこで、地区ごと生活を支えるための専門家を派遣して、外国人と日本人住民の間に立ってコミュニケーションを図ることができるような人材が必要です。トラブルは、避けて通ることは絶対にできないので。
195	町内会研修の充実 サークルへの参加を呼び掛ける。運営費等の補助によりスケールアップを図ります。
196	外国人の生活をサポートするためにボランティアが必要だと思えます。一人または少人数の簡単なサポートをしてくれる人がいれば、生活情報、知識が得られ、いじめなどの職場問題もいち早く気付け、市民との交流も深まると思えます。

市の考え方分類：条例案には反映しないが、今後の取組の参考とする

15 「多文化共生推進計画」、「多文化共生協議会」への意見 3件

No.	意見の概要
197	条例の理念が市民に浸透するような計画ができることを期待しています。
198	まだまだ外国人への偏見が多いと思います。このことに、どのように対応していくのか、計画の内容に期待しています。
199	多文化共生推進計画と多文化共生協議会はどちらも深くつながっていて、特に多文化共生協議会は市長に意見することができるという関係ができていますので、結果的には市民の声や多文化共生協議会からの声を市長に届けられるシステムは良いと思いました。

市の考え方分類：条例案には反映しないが、今後の取組の参考とする

16 市民の参画に関する意見 5件

No.	意見の概要
200	多文化共生のまちをつくるにあたり、この条例も多文化共生の中で生み出していくことが大切だと考えます。そのために、条例制定作業の過程を大切にし、そこに国籍や民族、静岡市に長く住んでいるとかいないとか、日本語が上手であるとか上手でないのかなどは一切関係なく、みんなが参画して作り上げていくことこそが、まさに多文化共生の具体化の姿だと思います。そうしたことから、この条例制定だけでなく、様々な市の事業に様々な人が参画できる仕組みが大切だと思います。
201	多文化共生社会は、日本人にとってもより快適で幸福感を持てる社会であることが重要であると考えます。多文化共生社会をつくるために地域に暮らす日本人が何かしらの犠牲を払ったり、遠慮したり、暮らしにくいことがあると、理解が得にくくなり、継続的に事業を進めることは難しくなってしまうと思います。日本人の気持ちや立場もしっかりと受け止めて進めてほしいと思います。
202	静岡市に暮らす外国籍の方々の声を聴いて実際の取組を進めてもらいたい。
203	事業者・団体だけではなく一般も参加できる条例にした方がよいのではないかと考える。「参加したい」、「力になりたい」と考えていても、「活動がない」、「活動があることを知らない」とであると、参加したいと考えている人にとってのデメリットであるため。
204	推進体制として協議会が設置されているが、条例制定を機会に「審議会」とし、市長の諮問に答えると同時に、事業進捗のチェック機能を果たす。条例制定効果が発揮され、事業推進に結びつくような体制強化が必要だと思う。当事者を中心とした意見をお聞きする場は別にあればいいと思う。

市の考え方分類：条例案に反映する

17 差別の解消に関する意見 6件

No.	意見の概要
205	<p>I think it is a wonderful idea and I am glad to see this kind of forward thinking from Shizuoka City. But I do wonder about how this is going to be done. Discrimination mostly comes from ignorance....ignorance about other people's culture, how they think, why they are in this place, doubts and fears about communicating with someone different, etc. In order to eliminate discrimination, these things must be addressed. People must be educated about each other, both directly and subtly. Lastly, and perhaps a little controversial, I think people need to understand why this ordinance is happening. What kind of things have happened? We should hear peoples' stories about discrimination and understand what kinds of things are discriminatory.</p> <p>[日本語訳] 素晴らしいアイデアだと思いますし、静岡市からのこういった前向きな考えを知ることができて嬉しいです。しかし、どうやって実現するのかは疑問に思います。差別は主に無知から生まれます。他の人々の文化、彼らの考え方、なぜ彼らがこの場所にいるのか知らないこと。自分と違った人とコミュニケーションを取ることに對しての不安・恐怖など。差別をなくすためには、これらのことに取り組む必要があります。様々な方法で人々はお互いについて教育されるべきだと思います。最後に、少し議論的になるかもしれませんが、人々はなぜこの条例が作られているのか知る必要があると思います。どういったことが起こったのでしょうか。差別された人々の話を聞き、どのようなものが差別的であるかを理解する必要があります。</p>
206	<p>I believe that this is a very good idea, promoting intercultural equality. Also, it allows for better communication both, in the workplace and in everyday life. One thing that should always be kept in mind, discrimination is birthed from adults and passed down to children, this is the root of the issue. If we can find a way for everyone to fundamentally change the way they look at each other, discrimination will always be an issue in pseudo multi-cultural societies.</p> <p>[日本語訳] 多文化共生の推進は大変良い考えだと思います。職場や日常生活でのコミュニケーションの向上に繋がります。留意点の一つとして、差別は大人から生まれ、子供に受け継がれるということです。これが問題の根源です。全ての人が互いの見方を根本的に変えない限り、偽りの多文化社会では差別という問題は無くなりません。</p>

207 First, the idea behind what was written is sound. Like I mentioned above, the mission is a healthy one, and if done tactfully, it can do a lot of good for the city (especially it's foreign residents). Now, please pardon my ignorance towards how the "ordinance making" process goes, but I've noticed a significant lack of specific proposals in the contents of the paper. The mission statement is repeated several times, but no real specific change is mentioned. I'm wondering if those specific changes have already been brainstormed or not. In any case, I feel that to get the positive environment/change you desire, you need to understand there are two avenues for change. 1. Change in perception through education and proper international cohesion. 2. Hard and clear implementation of changes in regulations found at common public facilities.

To me, the clearer, faster, and perhaps the most immediately useful thing for foreign residents are these "changes in regulations". I understand that some of these regulations might be already implemented, but I will simply list a couple of examples to convey what I mean. For example, stricter rules against discrimination in the work place. It has come to my attention that across different schools in our city, teacher coexistence between non-Japanese teachers and native teachers are not exactly positive. In the worst of cases, part of the aggression seems to be fueled by discriminatory feelings towards a teachers (or ○○s) home country (or the simple fact that they are not Japanese). This is often either completely ignored, or kept in secret to avoid a wider problem. Even if this is reported to higher-ups, the same mentality applies, and the problem is handled more to "minimize trouble" rather than "the safety and convenience" of everyone. So by ways of this example, foreign residents should have somewhere to go where they feel comfortable enough to voice their problems of this kind, and where rules/laws/regulations have their well-being in mind. Behavior like this (hierarchy aside) is unacceptable, and likely the worst of cases from that previously stated 40% (in the report). In very simple terms, in any country in the world, a foreign resident doesn't only feel alone when far from their loved ones, but also when they feel they have nobody to seek out to.

Furthermore, a few more examples come to mind. On the topic of schools, foreign students that move to Japan should have more aid given to them. I find that teachers have little training on what to do, and any response from people outside of the schools can come late and unaware on what to do. The lack of knowledge on how to deal with the situation is absolutely justified, as it can just as variable and unpredictable as with other students. However, there should be a more uniform, and consistent plan to help these kids too. Similarly, although to a much lesser degree, there are also discrepancies with children who have foreign parents. From what I've been told (pardon the "he-say-she-say"), events such as the yearly "English Speaking Contest" have restrictions for these children. Students are not allowed to advance to further stages in this contest just based on their relation to their parents. The parents might not even talk in English at home, or not know English at a proficient enough level. Now, because I haven't confirmed this on my own, instead of criticizing an event based on a potentially false claim, I will use this as a hypothetical example to highlight the kind of regulations that need change.

Additionally, for no circumstance, should places be allowed to impede certain people from using their services. In other words, restaurants (and other establishments) should not be allowed to stop non-Japanese customers from eating there. I understand that there is a sense of "my place, my rules" within restaurants, and refusing entry to certain people is not exactly rare abroad, but general statements such as "no foreigners allowed" are the complete opposite of what you want in your vision. This is a very broad topic, so I will stop it there. All in all, as a non-Japanese resident of the city, I appreciate the intention to make everyone more happy. A happier city means happier people. Specifics aside, I feel that's what we can all wish for everyday.

〔日本語訳〕

まず、背後にある考え方はしっかりしていると思いました。上で述べたように、条例が目指していることは有益で、如才なく行われれば、市（特に外国人住民）に大変役に立つと思います。「条例の作成」過程が分からず申し訳ないのですが、条例の資料では具体的な提案がかなり不足していると思いました。基本理念は数回繰り返されていますが、実際の具体的な変化方法については言及されていません。それらの具体的な変化方法が議論されているのか疑問に思います。いずれにせよ、積極的な環境の変化を望むのであれば、2つの方法があります。

1. 教育と適切な多文化共生推進による意識の変化。

2. 公共施設での厳格で明確な規制の変化。外国人住民にとって、より明確かつ迅速で、最もすぐに役立つことは「規制の変更」です。

これらの規制のいくつかは既に実施されているかもしれませんが、いくつかの例を挙げます。例えば、職場での差別に対する規則の厳格化です。市のような学校で、外国人教師と日本人教師の関係はあまり良くないと見受けられます。最悪の場合、敵意の一部は、外国人教師（または〇〇）の母国に対する差別的な感情（または彼らが日本人ではないという単純な事実）によって助長されているように感じます。こういった問題は、よく面倒を回避するために黙認されます。これが上層部に報告されたとしても、皆同じ考え方で、全員の「安心安全」よりも「トラブルを最小限に抑える」ことで対処されてしまいます。この例で示したいのは、外国人住民がこういった問題について声を上げやすい場所、外国人住民の幸福について言及しているルールや法律、規制があるような居場所が必要だということです。このような振る舞い（立場にかかわらず）は容認できず、恐らく調査で回答した4割の人々の中でも最悪のケースに該当します。簡単に言えば、世界のどの国でも、外国人住民が孤独を感じるのは、愛する人から遠く離れているときだけでなく、味方がいないと感じているときもそうです。さらにいくつかの例が思い浮かびます。学校に関して、日本への留学生はもっと援助を受けるべきです。教師は留学生の対応について、あまりトレーニングを受けていません。学校外の関係者も何をすれば良いのか分からず、対応が遅いです。日本人生徒と同じように、場合によって適切な対応方法が異なるので、難しいのは分かりますが、留学生を助けるためにも、一貫した方針があるべきです。程度は下がりますが、外国人の親を持つ子供も他の子たちと違った扱いをされます。受け売りで申し訳ないのですが、毎年ある「英語スピーチコンテスト」のようなイベントでは、外国人ルーツの子供たちが制限されているようです。外国人ルーツというだけで、このコンテストの最終段階まで進むことができません。両親は家で英語を話さないかもしれませんが、十分な英語レベルでないかもしれないのです。私は自分でこの事実を確認していないので、間違っただけで批判はしませんが、変えられるべき規制かどれか強調するために例として使ってみました。

またいかなる場合においても、特定の人々の場所やサービスの利用を妨げるべきではありません。レストラン（および他の施設）は、外国人がそこで食事をするのを断ることはいけないということです。レストランのルールはレストランが決めるという感覚があるのは分かりますし、海外では特定の人の来店を拒否することは珍しくありませんが、「外国人不可」などの発言は条例の基本理念とは真逆です。

これは非常に幅広いトピックなので、ここで止めますが、全体として、より良くしようとしてくれている市の姿に、この市の外国人住民として感謝申し上げます。より幸せな市とは、より幸せな人々を意味します。具体的なことはさておき、これは皆が日々望んでいることだと思います。

208 日本で生活する〇〇（民族名）は日本政府の政治に左右され民族教育を受ける権利において（高校無償化、幼児保育無償化など）差別を受けています。国同士の政治に左右されることなく、同じ人間として多文化共生を実現できれば良い。

209 静岡市のかかげる多文化共生の理念は素晴らしいです。しかし、多文化共生を実現する上で、「差別」の問題を無視することはできません。静岡市内においては、幸い、ヘイトスピーチをするような勢力の活動は活発ではありませんが、潜在的にそのような思想を持った層は存在しています。実際、県外のグループが主導する形で、静岡市内においてヘイトスピーチが行われたこともあります。その意味では、静岡市はあらゆる差別的言動を許さないことを示す意味において、罰則を伴うヘイトスピーチの排除が検討されるべきです。国籍の如何を問わず、いわゆるオールドカマーを含めて外国にルーツをもつ住民が、ヘイトに怯えることなく過ごすことができるようにすることは、多文化共生社会の実現の基礎となるものです。

210 国籍や民族以外の差別についても、「多文化共生」の旗のもと、一緒になって取り組んで欲しいです。

市の考え方分類：条例案には反映しないが、今後の取組の参考とする

18 多文化共生の課題解決に関する意見 1件

No.	意見の概要
211	<p>とてもよいことで賛成ですが、以下が不足していると感じました 「文化の違いにより発生する、個人間、個人と組織、組織間などの課題解決をするための具体的な解決の仕組み」 個人や組織での話し合いや裁判に任せきりではなく、連絡会などの、多文化共生の課題を解決する機会や仕組みを市民とともにつくる必要があると思います。</p>

市の考え方分類：条例案に反映する

19 外国人住民の移住・活躍促進に関する意見 7件

No.	意見の概要
212	<p>骨子については、基本項目として必要な要素と考えます。この他、技能実習生や専門学校生の他、定住を希望される外国人への移住等、魅力ある都市としての戦略的な移住促進策も、今後必要になってくると考えます。（資料添付あり）</p>
213	<p>留学生でそのまま卒業し、市内に就職する対象者の多文化共生のまちづくりと、海外からの家族同伴での赴任者対象での多文化共生のまちづくりの両方を考慮すべき。他社例では、横浜市に家族同伴で生活し、当人のみ平日は静岡地区へ単身赴任することがあるとのこと。家族が静岡市では孤独環境に置かれることを回避するためとの事です。ぜひ、コミュニティを考えていただきたい。コロナ禍で環境が一変し、当面は海外からの受入は無くなる状況ですが、回復時には是非できていければと思います。</p>
214	<p>少子化による仕事の担い手不足は、必然的に様々な分野での外国人の活躍につながります。 条例案の骨子は、多文化共生の土台を構築するもので、とても大切なことを定めていると感じました。今後は、この条例を最低限のラインとして、静岡市の多文化共生施策の推進を期待するとともに、国の外国人企業活動促進事業などの制度も活用して、静岡市をより良くするためのアイデアを持つ外国人の流入にも積極的に取り組んでいただきたいと思います。</p>
215	<p>基本理念に掲げる「多様性を活かす」という視点が、4つの施策の柱の説明文や事業例からは見えてきません。少子高齢化やグローバル化が急速に進む中、まちの活力を維持・発展させていくために、外国人人材を活かしていくことなど、ダイバーシティの考えは必要だと思います。説明文や今後取り組まれる計画策定の中に盛り込んでもらえることを期待します。</p>
216	<p>外国人人材の面では、静岡市が企業活動の研究開発や大学等の学術研究分野の人材が世界中から集まるまちになるなど、夢が広がります。社会経済の活性化や市民やまちの誇りにもつながると思います。多文化共生分野の取組が、海洋文化や高等教育など、静岡市が推し進める他の分野と連動していくことを願っています。どうぞよろしく願います。</p>
217	<p>“学び合い、助け合い”という言葉がよく出ているが、逆に外国人の方たちからまちのためにできることが少ないと感じた。もっと外国人の方たちが活躍できる場や状況を作れたら、そこに居場所が出来て住みやすくなると思うし、また、そこから人の繋がりが出来るのではないかと思った。</p>

218 外国人で、まちの事を考え、まちのために活躍している人も多くいます。ぜひ紹介してほしいです。

市の考え方分類：条例案には反映しないが、今後の取組の参考とする

20 多文化共生推進の全般に関する意見 4件

No.	意見の概要
219	浜松や磐田、菊川のように市民にとって多文化共生があたりまえになっているとはいえ、市として本気にならないと、誰も知らない条例になりそうな気がします。残念ながら静岡市は全国で最も人口の少ない政令市で、人口も減少が続いています。この条例を市の多文化共生施策の後押しや実施根拠とするための条例にするのではなく、本気で、外国人住民が住みたくなる日本一の多文化共生都市を目指していただきたいと思います。
220	条例を本当の意味で機能させていくためには、行政だけでなく市民の人たちの理解や協力は不可欠だと考えます。そうしたことから、行政が何をするのか、（例：生活環境の整備、人材の育成、協議会の設置 など）を前に出すのではなく、目標とする社会やまちのあり方を具体的に示すことが重要であり、そうすることによって、市民と目標を共有し、市民も行政もそれに向けてともに歩み進めることができると思います。
221	条例の仕組みや実効性については、素人ですのでよくわかりません。また、本条例が社会福祉行政とどのように結びつくのか？多文化共生に特化したものなのか？少々疑問を感じます。県には、「福祉のまちづくり条例」があり、社会福祉法の改正に伴い静岡市も「重層的支援体制整備事業」への移行準備事業実施自治体に名を連ねています。「重層的支援体制整備事業」に関する文書の中に「地域住民の複雑・複合化したニーズに対する包括的な福祉サービスの提供体制の構築」という文言があり、正に多文化共生はこの部分に合致するように思います。民生委員活動で、現在とても頼りになるのが「包括支援センター まるけあ」です。高齢者に関する相談を一括して、受けてくれます。しかし、そこには65歳以上という壁があります。生活困窮者の問題、障がい者の問題、ごみ屋敷問題等、なかなか難しい対応が迫られます。今後、外国人住民とのかかわりも多様化していくと思います。多文化共生も社会福祉行政に包括的に（包摂的に？）組み込まれるべきものであると思います。
222	「多文化共生」という言葉はよく使われていますが、政治・経済をはじめ、移民問題、国の外交・防衛問題、他の国で問題視されている人権問題などと、どのように向き合っていくのかを抜きにして、多文化共生が成立するのかわからないと個人的に感じています。牧歌的なイメージを含む「多文化共生」が、現実的かつ深刻な社会問題をどう取り込んでいけるのかは今後の課題だと思います。

市の考え方分類：条例案には反映しないが、今後の取組の参考とする

21 静岡市の特色に関する意見 1件

No.	意見の概要
223	条例案の内容は、一般的に見れば素晴らしいものであると思いますが、静岡市の特色（静岡市らしさ）が全く反映されていない何処の地域でも使用できる内容で、大変残念です。また、協議会委員のメンバーも、業界関係者、外国通の方々、外国住民といった方々で構成されていて、予め想定できる落としどころが見受けられ、如何にも「お役所仕事」的に感じました。もし、2期4年の協議会委員もいるとすると、本当に一部の意見のみで検討されていることになり、偏った条例になりがちで問題であると思います。静岡市に住む様々な方々の意見が全く反映されておらず、「真」の多文化共生には繋がらない気がします。静岡市の歴史、文化、経済、伝統工芸、スポーツなどのエッセンスが織り込まれた内容にしていきたい。

市の考え方分類：条例案には反映しないが、今後の取組の参考とする

22 条例の啓発・プロモーションに関する意見 12件

No.	意見の概要
224	全体的に「基本理念」に基づいて活動を行うという方針の為、解釈の差異がでないように多くの人に本質を周知させ、共通理解の徹底を図るべきだと感じた。
225	このような条例を制定することは非常に良いことだと考えます。ただ、条例が「多文化共生って大事だよね」みたいな、ふんわりしたものになってしまうことを危惧しています。これまでは、日本の社会の中で外国人住民をどう支援していくかが、中心であったかもしれませんが、今後は受け入れる日本人側にとって、また、静岡市民の生活、経済、教育などにとって、外国人住民は重要な「人財」であるため、多文化共生は絶対必要な考え方であることを強く押し出した方がよいと思います。
226	すごくいいと思います。でも、少しアバウトすぎて、分かりづらかったです。日本では、過去にあったことをひきずってしまっている人が多いのかなと感じる事があります。なので、そういう人たちの固定概念をなくせるものがあればいいのかなと思いました。
227	具体例をわかりやすく。
228	本条例の制定が「絵に描いた餅」にならないように、行政の垣根を超えた議論を重ね実効性のある施策となっていくことを願います。
229	外国人を街づくりの一員にするためにいろいろなことが制定されていると思った。外国人の方に具体的にどのように推進、リーチさせていくのか気になった。
230	条例の制定をきっかけに、静岡市が多文化共生に力を入れていることを、市民の皆さんに知ってもらえたらいいなと思います。応援しています。
231	「多文化共生を推進させる」こういうのは言うのは簡単であるが、実現させなければ意味が無い。イベントの回数を増やしたり、メディアやSNSなどで積極的に取り上げてもらうなど、活動状況を報告するプロモーション活動をした方がいいと思います。

232	市の中心から離れたような場所でも実行するというを加えてほしい。そして、もっと多くの人が見ることのできるような情報開示にしてほしい。学校でこのような活動があるということを学ぶまで、「多文化共生」という言葉すら知らなかった。近所ではまだ「多文化共生」のための活動があるということをあまり見聞きしていないため。
233	多文化共生を進め、暮らしやすいまちだということや、静岡市のよいところをその方々に発信してもらうことも大事だと思う。
234	条例を市民に伝えるためにくりかえし呼びかけしたり、ポスターを貼ったりして、いろいろな人に伝える必要があると思います。そして、市だけが実施するのではなく、私達市民が自ら活動するような環境をつくりたいです。「やさしい日本語」をみんなで教え合ったり、外国人労働者と一緒に話したり、ゲームなどで遊んでもっと仲が深め合えたならいいと思います。市の条例・実施については、すごく良いと思っています。私も、市民が何か活動できることを考えていきたいと思っています。
235	静岡市では、外国人住民と日本人住民の交流について、国際交流員の派遣によるこども園等を対象とした国際理解講座や、多文化共生サポーター養成講座は、総務省管轄の多文化共生アドバイザー制度にも登録されているほど先進的な取り組みであるという理解でございます。本条例もしくは来年度作成される多文化共生推進計画に、上記の取り組みの先進性をアピールすることで、静岡市の多文化共生推進に対する本気度を示すことができるのではないかと思料しました。

市の考え方分類：条例案には反映しないが、今後の取組の参考とする

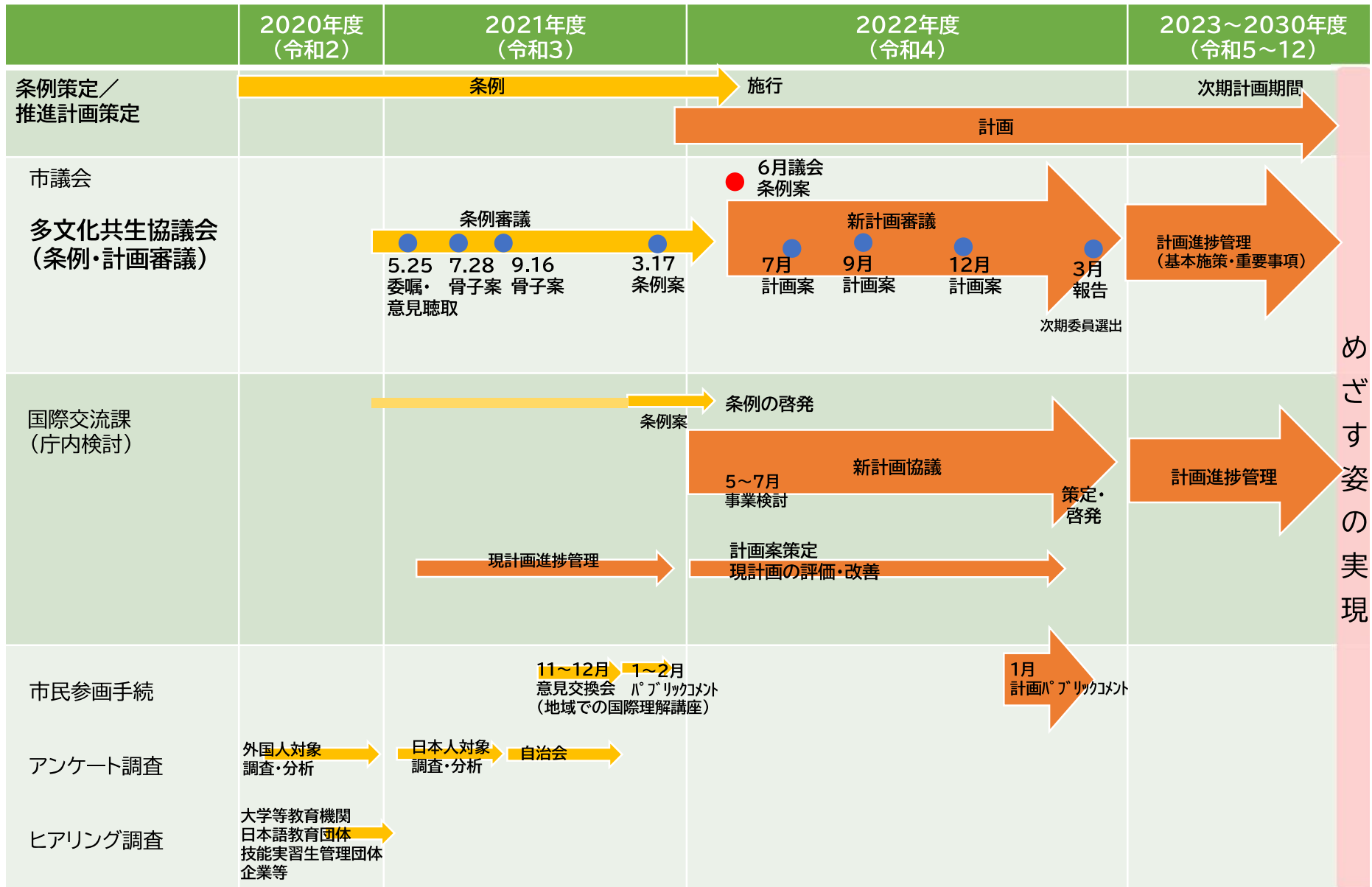
23 パブリックコメントへの意見

No.	意見の概要
236	パブリックコメントの実施に際し、多言語で資料を用意していることは良い取組だと思います。

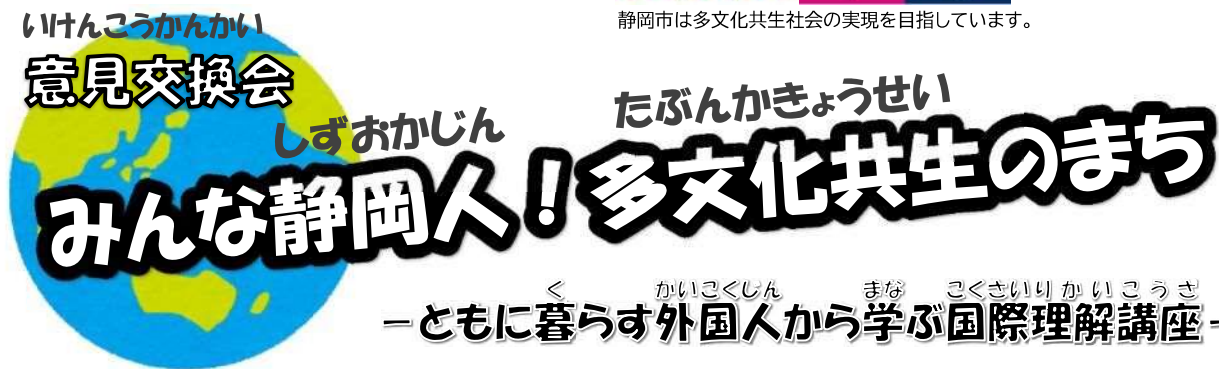
市の考え方分類：その他意見

今後の予定（多文化共生のまち推進条例・多文化共生推進計画）

資料3



めざす姿の実現

いけんこうかんかい
意見交換会

—ともに暮らす外国人から学ぶ国際理解講座—

市民意見交換会の結果について

令和3年11月から12月に各区で実施した意見交換会では、外国ルーツの委員にゲストスピーカーを務めていただき、延べ71人の市民の参加を得て実施しました。

開催概要と参加者の意見などについて、以下のとおり報告します。

駿河区	日時／場所	令和3年11月13日(土) 10:30~12:00 / みなくる
	テーマ	地域交流からの多文化共生
	ゲストスピーカー	伊藤 洋子 委員、ゴー グエン ゴック トラム 委員
	参加者数	26人
	主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・来日した子どもの高校進学支援 ・福祉、経済、産業との連携 ・SAMEとの連携、ボランティアの活用 ・教育のつなぎ役、行政手続きのアテンド役 など
葵区	日時／場所	令和3年11月28日(日) 15:30~17:00 / 市役所静岡庁舎
	テーマ	外国を知ろう 静岡を知ろう
	ゲストスピーカー	長阪 有美奈 副会長、パメラ ジュール 委員
	参加者数	22人
	主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・条例制定の位置づけ ・相談体制 ・交流の取組の必要性 ・イスラム教徒との共生の課題 など
清水区	日時／場所	令和3年12月7日(火) 18:30~20:05 / 市役所清水庁舎
	テーマ	外国人住民とのコミュニケーション
	ゲストスピーカー	孔 雪 委員、ホリウチ アリッセ イズミ 委員
	参加者数	23人
	主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化対策(施設) ・国際交流協会の場所、国際交流イベント ・地域に向けた条例の周知 ・コロナ禍の外国人支援 など

意見交換会「みんな静岡人！多文化共生のまち」～ともに暮らす外国人から学ぶ国際理解講座～

日時 2021(令和3)年11月13日(土) 10:30～12:00
 場所 みなくる会議室2

- 参加者 市民26人、ゲストスピーカー2人、国際交流課職員6人
 いただいたご意見、ご質問と回答

No.	意見・質問の要旨(ポイント)	回答の要旨(ポイント)
ゲストスピーカーへの意見・質問		
1	県の「かめりあ」での相談について、子どもについての相談はどのようなものがあるか。	学校の懇談会などについて、母親から言葉が分からなくて困っているという相談がある。通訳に出向くような対応もしている。
2	お店を営んでいるが、日本語がうまくできない外国人のお客様が気持ちよく買い物できるように、どのようなことができると思うか。	外国人にもいろいろな人がいるとは思いますが、笑顔で「何かお困りですか」と聞いていただけると嬉しい。外国人にとって、日本人と話すことを通じて日本語を覚えたり、外国人同士でかたまらないよう、日本人と交流することがとても大事だと思う。
3	県の「かめりあ」で、日本人からの相談はどのような内容か。また中国人の相談が少ないのはなぜか。日本人の差別的な対応についての事例の話聞いたが、相談を受ける中で、外国人の心のケアを静岡市ではできていると思うか。どのように接しているか。	お話しした事例は、日本人の担当者がたまたま悪かったのだと相談者も理解してくれていると思う。外国人のいろいろな困り事に、相談員の立場から話を聞き、助言することで、少しでも心のケアになればと思う。 「かめりあ」での日本人からの相談で知っている事例としては、外国人の採用にあたっての在留資格のこと、文化や制度の違いなどについてのアドバイスを求められたことがある。中国人からの相談も毎週1、2件は受けている。心のケアについて、「かめりあ」では、相談者へのアフターフォローを大切にしている。

しずおかし こくさいこうりゅうか いけん しつもん
 静岡市（国際交流課）への意見・質問

4 ひかくてきあたらし らいにち こ こうこうしんがく
 比較的新しく来日した子どもの高校進学が
 むずか はなし き し おうえん
 難しいという話を聞か、市の応援がある
 おも し ほうこうせい もと せさく
 とよいと思う。市の方向性や求められる施策
 かんけいしゃ
 について、また、関係者からどのようなこと
 き
 に聞いているかなど状況について教えて
 ほしい。

ちい ころ こくせき かんけい ともだち こ
 小さな頃から国籍など関係なく友達がいる子はよ
 いが とちゅう らいにち こ おお
 いが、途中から来日した子ども多くいて、その子たち
 きょういく かだい き
 の教育にはいろいろな課題があると聞いている。
 じゅうぶん がっこう にほんごしどう と
 十分でないかもしれないが、学校で日本語指導に取
 り組んでいる。進学のための学習については、
 がいこくじん そうてい やかんちゅうがく うご けん
 外国人も想定している夜間中学の動きが県や
 みんかん し ちゅうし にほんご
 民間であるため、市としても注視している。日本語
 きょういく こくさいこうりゅうきょうかい
 教育については、ボランティアや国際交流協会
 きょうしつ じゅうじつ
 の教室をいかに充実していくかということも
 たいせつ
 大切である。
 きょういくいんかい がいこく こ
 教育委員会においても外国ルーツの子どもたちの
 きょういく ちから い げんざい そうごうきょういくかいぎ
 教育に力を入れており、現在、総合教育会議と
 いう場で、市長が教育委員とともに議論をしてい
 る。関係者から聞く深刻な課題としては、高校生の
 ねんれい にほんご わ らいにち こ
 年齢で日本語が分からずに来日した子のことであ
 る。ボランティアや日本語学校など、必要な日本語
 きょういく にほん はたら い
 教育につなげていく。日本で働いて生きてくこと
 きょういく たいへんじゅうよう かんが
 ができるためには、教育が大変重要であると考
 えており、日本語教育については、条例にも盛り
 こ
 込み、しっかりと進めていきたい。

5 たぶんかきょうせい たてわ ふくし けいざい
 多文化共生も縦割りでなく、福祉、経済
 さんぎょう れんけい と く おも
 産業などと連携して取り組んでほしいと思
 う。外国人を受け入れる事業者のフォロー
 じゅうよう おも しずおかし
 がとても重要だと思う。静岡市はSDGs
 ちから い れんけい と
 に力を入れていることもあり、連携して取
 り組むことで一般市民にとって良い取組に
 つながっていくと思う。

ぎょうせい たてわ れんけい じょうれい
 行政の縦割りにならないよう連携していく。条例
 じぎょうしゃ だんたい せきむ ていきょう
 には事業者、団体の責務として、サービスの提供や
 こようかんけい さべつ しめ じぎょうしゃ
 雇用関係で差別がないように示すなど、事業者の
 かたがた すす たいせい とどの
 方々とも、ともに進めていけるような体制を整え
 ていきたい。SDGsの「誰一人取り残さない」とい
 りねん たいせつ
 う理念を大切にしていきたい。

<p>6</p>	<p>説明にあった「ハーフ」という言葉は、差別用語なので気を付けていただきたい。行政が縦割り、組織も複雑で分かりにくい。国際交流協会との連携もできていないと思うことがある。多文化共生の定義が分からない。「すべての人が国籍、民族等…」と書かれているが、年齢や性別についてはどうか。障がいのある人はどうか。国の違いだけなのか。異文化よりまずは自分の文化を理解することが大切ではないかと思う。ボランティアの活躍の場がないため、市民をうまく活用してほしい。</p>	<p>「ハーフ」という表現は、アンケートでの回答の記載をそのまま話したが、不用意に扱い申し訳ありません。行政の組織は複雑にも感じられるかもしれない。幅広く連携するよう気を付けて取り組んでいく。「文化」の定義は広く、多文化共生という言葉が適切かは悩むところもあるが、今回の条例での多文化共生は、国籍や民族等にスポットを当てている。多様性という点では、性や障がいのあるなしなどとも効果が重なる部分もあると思うので、連携した取組なども考えていければと思う。主役は市民であり、行政は、市民の理解を得て、市民が積極的に活躍できるかを施策として示していく役割があると思う。</p>
<p>7</p>	<p>教育の充実については、コーディネーターとして、つなぐ人材が必要だと思うが、多文化共生協議会などで、そのような話がこれまで出ているか。1つ1つの取組は充実しているが、適切なところに外国人を結びつけることが難しいのではないか。また、行政窓口での手続きなどにおいても、アテンドする人材がいるとよいし、守秘義務を守る事ができるシステムの中にそういう人があるべきだと思う。</p>	<p>コーディネーターの話は、これまで具体的には出ていないが、外国人の方のニーズと提供する側とどうつなげていくかという課題意識は出ている。人材の育成も含め、地域日本語教育のあり方を検討している。今後、静岡市の日本語教育の方針を示したいので、教育委員会も交えコーディネーターについても検討したい。市役所1階ロビーに来庁された方を職員が案内する取組も始めており、通訳タブレットなどを活用して対応を充実できるのではないかと話をうかがって思った。外国人住民の相談は、多文化共生総合相談センターで受けているが、まずは、どこに相談すればよいか知ってもらうことが大事だと感じている。</p>

意見交換会「みんな静岡人！多文化共生のまち」～ともに暮らす外国人から学ぶ国際理解講座～

日時 2021（令和3）年11月28日（日）15:30～17:00
 場所 静岡市役所静岡庁舎 第3委員会室

- 参加者 市民22人、ゲストスピーカー2人、観光交流文化局職員6人
 いただいたご意見、ご質問と回答

No.	意見・質問の要旨（ポイント）	回答の要旨（ポイント）
ゲストスピーカーへの意見・質問		
1	<p>長く静岡で暮らしている中で、生活に必要な情報をどのように収集しますか。日本語で検索をしますか。</p>	<p>・グーグルで日本語と英語の両方で検索します。言語によって情報が違うこともあるので、よりよいリサーチのためには両方で調べます。 ・普段は日本語で検索して情報収集します。今度、英語でも検索してみたいと思いました。</p>
2	<p>英語を話したくて勉強していますが、最近、自動翻訳機というものが出てきました。英語だけは翻訳機ではなく直接話せるようになりたいと思っていますが、自分の言葉で外国語を話す意義について、どうお考えですか。</p>	<p>・言葉を学ぶことで視野は広がります。何も分からない状態からどう話すかを考えることは、頭の回転が必要です。また、言葉を勉強すると、文化も見えてきます。上手でなくてもいい、英語でなくてもいいです。言葉を学ぶことで人は成長できると思います。 ・技術の進化、テレワーク、AI、個人的にはあまり好きではありません。便利になればなるほど、人の脳には良くないと思います。私の会社では、AIにはできない、人の心や思い、文化を翻訳しています。機械では言葉の意味を訳すことはできても、本当に伝えたいことは訳せないことがあります。言葉を勉強することはとても良いことです。ぜひ続けてください。</p>

<p>3</p>	<p>条例を作るといことはどういう位置付けになるのでしょうか。強制力とか、例があると分かりやすいと思いますがいかがでしょうか。</p>	<p>条例には2つのパターンがあります。1つは、条例を作らなければならない場合です。例えば、市民の権利を制限するようなもの。罰則を設けたり、過料や何かをしたことで名前を公表するなど、お金ではなくても市民の不利益につながるような規制を定めるような場合は、条例を作らなければならないことになっています。もう1つは、条例を作らなくてもよいのですが、市民の理解を得たり、広く知ってもらうために任意に作る場合です。条例を作るためには、議員に議会で審議していただいて良し悪しを判断していただくこととなります。条例を作らなくても、行政ができることはありますが、今回の多文化共生の推進については条例を作って進めていこうと考えています。罰則の例として、他の都市ではヘイトスピーチの問題に対して、条例に違反すると罰金を取るところもあります。静岡市の条例は、市民の皆様に広く受け入れてもらうためにつくるものであり、現在検討中の案では、罰則は設けない予定です。</p>
<p>4</p>	<p>静岡駅前外国人と話をしたとき、就労について雇い主に苦情を言えないと聞きました。県の相談窓口を案内しましたが、就労についての静岡市の相談体制はどうなっていますか。どんな相談がありますか。専門機関ではなく外国人が気軽に相談できる窓口が必要だと思えます。</p>	<p>静岡市としても相談体制は重要だと考えており、今日お配りしたチラシのとおり「静岡市多文化共生総合相談センター」を各区に設置しています。電話やメッセージなどでも受けられるようにしています。相談内容によって窓口を変えることなく、どんなことでも受けられるようにしています。日本人からの相談もお受けしています。より専門的な相談は、行政書士会や、国の機関などをご案内することもあります。就労の相談も受けていますが、詳しい内容は個別にお話しをさせていただきます。</p>

<p>5</p>	<p>ゲストスピーカーのお話にもありますが、日常生活の中で多文化意識を高められるとよいと思います。外国にルーツのある方と交流したくても、どこで交流できるのか分かりません。イベントもありますが、日頃から交流できる場所があれば素敵だと思います。例えば市の主催で「多文化共生推進月間に、他の国籍の人と参加すると安く飲める」などの企画を実施していただくと交流が進み、差別もなくなると思います。条例だけでなく、ソフト面で交流が活発になると理解も進むのではないかと感じました。</p>	<p>条例の中でも、地域住民の交流促進に力を入れていくよう定めたいと考えています。今日の「わいわいワールドフェア」のようなイベントも続けたいと思いますが、もっと、小さな交流ができる拠点や、つながりが持てるような場を作りたいと思います。県立大学の学生と協働でエスニックレストランマップを作っていますが、そういう場所に気軽に行っていて交流したり、教会やモスクなどは関係のない人は行ってはいけないと思いがちですが、誰でも参加できるイベントがあるとよいかもしれません。一緒に食べたり飲んだりすることで心も近くなると、ご意見をうかがって感じましたので考えていきたいと思えます。</p>
<p>6</p>	<p>生活の困り事として、「家族の老後」とアンケート結果にありましたが、イスラム教徒の方々が永住すると墓地の問題がです。イスラム教の埋葬方法は、日本と大きく異なり、大分県日田市でも住民の間で問題になっています。市として情報は持っていますか。多文化共生は、まず外国人の方が住みやすいまちをつくり、その上で外国人にも日本のルールを守ってもらうことが大事で、外国人に寄り添うばかりにならず、日本人の感情にも配慮が必要だと思えます。給食でハラール食を取り入れることも同じです。日本語講師をしていますが、生徒たちが日本人との共生をあまり望んでいないようで残念に思うことがあります。公の場でも、イスラム教徒の方の考えを聞く機会がほしいと思えます。</p>	<p>イスラム教徒の墓地の用地については難航している話をうかがっています。宗教面からのニーズや文化の違いに行政として対応できていないことがいろいろあると思えます。イスラム教徒の方については、墓地と食事の課題があると認識しています。今はまだ若い方が多いですが、外国人の高齢化も進みますので、墓地については今後の問題です。厚生労働省も全国的な問題として捉えています。</p>

意見交換会「みんな静岡人！多文化共生のまち」～ともに暮らす外国人から学ぶ国際理解講座～

日時 2021(令和3)年12月7日(火) 18:30～20:05
 場所 静岡市役所清水庁舎 312会議室

- 参加者 市民23人、ゲストスピーカー2人、国際交流課職員6人
- いただいたご意見、ご質問と回答

No.	意見・質問の要旨 (ポイント)	回答の要旨 (ポイント)
ゲストスピーカーへの意見・質問		
1	<p>日本人の学生がブラジル人コミュニティや総領事と行った交流行事について話を聞きましたが、その場で終わるのでなく、その後でどのような活動につながりましたか。</p> <p>以前、町内に中国人研修生が7、8人で一軒屋を借りて住んでいることを知り、家に招き町内で歓迎会を開きました。研修生から他の地域の仲間を呼んでもよいかと聞かれたので、よいと答えたら30～50人ほど集まりました。中国の地元の料理を作って持ってきてくれたりして楽しい会になりました。その後、運動会やお祭りに誘ったりもしましたが、1年半くらいで引っ越して交流も終わってしまいました。接点を作っても続けることが難しいと感じたので質問しました。</p>	<p>交流行事をきっかけに、学生は自分たちでコミュニティに行き買い物をするようになりました。教員になった学生がブラジル人の子どもとポルトガル語で話したり、ブラジルに留学をしたり、国際交流機関へ務めることになった学生もいます。いろいろな活動につながりました。交流は、初めの一歩がとても重要です。その後は、見えない所でつながっていたりもします。中国の方を自宅に招いたことは、「日本人は優しい」という印象にもつながると思いますし、心を開いて、まずは交流を始めることが多文化共生のために重要なことだと思います。</p> <p>(静岡市より) 中国の方は、おそらく技能実習生だと思いますが、行政として、技能実習生の方々と地域の方々をつなげることは課題のひとつだと考えています。実際に交流をされたというお話を聞き大変うれしく思います。</p>
2	<p>「差別をしない」ことがとても大切だと私も思いますが、日本人が差別をしたというつもりはなくても、外国人が実は傷ついたという</p>	<p>ブラジル人コミュニティの中では、髪の毛の色や目の色が違うこと、ゴキブリみたいだと言われたこともあると聞きました。子ども同士で、悪い気持ちで</p>

<p>ことがあるのではないかとおも思いました。 ぐたいてき はなし おし 具体的なお話があれば教えてください。</p>	<p>はないかもしれませんが、髪^{かみ}の毛^けや目^めの色^{いろ}のことを い 言^いわれたりするとブラジルの子^こは傷^{きず}つきます。残念^{ざんねん} ながらまだそういった小^{ちい}さな差^さ別的^{べつてき}な話^{はなし}をよく耳^{みみ} にします。 ・コンビニ^{がいくじんじゅうぎょういん}の外国^{にほんご}人^{はな}従^{ひと}業^{ひと}員^{ひと}には、日本^{にほんご}語^ごを話^{はな}せる人^{ひと} もいます。お客^{きゃくさま}様^{さん}が親^{しんせつ}切^{せつ}のつもりからか、短^{みじか}い 日本^{にほんご}語^ごで「これ」「それぞれ」みたい^{ことば}な言^{はな}葉^{はな}で話^{はな} ますが、外国^{がいくじん}人^{じん}にとつては、軽^{けい}蔑^{べつ}されて^ているかのよ うに感^{かん}じて^てしまうこと^{こと}がよくあ^あります。名^な前^{まえ}を聞^きく ときも「名^な前^{まえ}は？」とか、指^{ゆび}をさ^さしてく^くるお客^{きゃくさま}様^{さん} もいます。従^{じゅうぎょういん}業^{いん}員^{いん}は、「日本^{にほんご}語^ごが下^へ手^たで軽^{けい}蔑^{べつ}され ている」とおも思^{おも}って^てしま^まいます。</p>
<p>にほん びょういん い こま 日本^{にほん}で病^{びょういん}院^{いん}へ行^いって困^{こま}ったこと^{こと}はあ^ありませ^せ んか。病^{びょういん}院^{いん}や薬^{やつきやく}局^くのシス^{がいく}テム^{ちが}が外^{がいく}国^{ちが}と違^{ちが} ます。薬^{くすり}の使^{つか}い方^{かた}も外^{がいく}国^{ちが}と違^{ちが}いますが、 やくざいし たんご なら 薬^{やくざいし}劑^{たんご}師^{なら}が単^{せつめい}語^いを並^なべるよ^ような説^{せつめい}明^{めい}をす^すること があります。そのよ^ように困^{こま}って^ている外^{がいく}国^{こせき}籍^{せき}の かた おお おも しずおかけん がいくこご しんざつ 方^{かた}は多^{おほ}いと思^{おも}います。静^{しずおかけん}岡^{がいくこご}県^{しんざつ}が外^{がいく}国^{こせき}語^{せき}で診^{しんざつ}察^{せき} を受^うけら^られる病^{びょういん}院^{いん}の情^{じょうほう}報^{ほう}をイン^なター^{にほんじん}ネッ^なト で流^{なが}して^{にほんじん}いま^なすが日^{にほんじん}本^{じん}人^{じん}のサ^なポ^{にほんじん}ー^なトがな^なけれ ば情^{じょうほう}報^{ほう}にた^{わたし}ど^{わたし}りつ^{わたし}くこと^{わたし}がで^{わたし}きませ^{わたし}ん。私^{わたし} は日^{にほんご}本^ご語^{ぎょうしつ}教^{せいと}室^との生^{ともだち}徒^{びょういん}やそ^いの友^い達^いが病^い院^いに行^い きたい時^{とき}はいつも付^つき添^そって^そいま^そす。ま^まずは ちか にほんじん じょうほう ぐたいてき つた 近^{ちか}くに^{にほんじん}い^{じょうほう}る日^{ぐたいてき}本^{つた}人^{つた}が情^{つた}報^{つた}を具^{つた}体^{つた}的^{つた}に伝^{つた}え^{つた}る こと^{だいじ}が大事^{だいじ}です。 こんかい せつしゅ じゅんちよう ややく 今^{こんかい}回^{かい}の^{せつしゅ}コ^{じゅんちよう}ロ^{やく}ナ^{やく}ワ^{やく}ク^{やく}シ^{やく}ン^{やく}接^{やく}種^{やく}は、順^{じゅんちよう}調^{やく}に予^{やく}約^{やく} や接^{せつしゅ}種^{せつしゅ}がで^{ぎょうせい}きま^{かた}したか。行^き政^きの^き方^きに聞^きいて^きい ただ^{せつしゅけん}きたい^{とど}のですが、接^{せつしゅけん}種^{とど}券^{とど}が届^{とど}いてもお^{とど}そ らくN1^{にほんごのうりよく}レ^{にほんごのうりよく}ベ^{にほんごのうりよく}ル^{にほんごのうりよく}の日^{にほんごのうりよく}本^{にほんごのうりよく}語^{にほんごのうりよく}能^{にほんごのうりよく}力^{にほんごのうりよく}がな^{にほんごのうりよく}けれ^{にほんごのうりよく}ば り^りか^りい^りだ^りれ^りき^り 理^り解^りで^りき^りませ^りん。誰^{だれ}に聞^{だれ}くこ^{だれ}とも^{だれ}で^{だれ}き^{だれ}ませ^{だれ}ん。</p>	<p>びょういん せんせい しょうじょう かん いた 病^{びょういん}院^{いん}の先^{せんせい}生^{せんせい}から、ど^{しょうじょう}ん^{しょうじょう}な症^{かん}状^{いた}か、ど^{かん}ん^{いた}な感^{いた}じ^{いた}で痛^{いた} いのかを聞^きかれて答^{こた}えられ^{こた}ない時^{こま}は困^{くすり}ります。薬^{くすり} の説^{せつめい}明^いも意^い味^みが分^わから^わない時^{びょういん}もあ^{びょういん}ります。病^{びょういん}院^{いん}で、 にほん しんざつけん だ ばんごうふだ 日本^{にほん}では診^{しんざつけん}察^だ券^だを出^{ばんごうふだ}して^{ばんごうふだ}から番^{ばんごうふだ}号^{ばんごうふだ}札^{ばんごうふだ}をもら^{ばんごうふだ}います^{ばんごうふだ}が、 それ^わが分^まから^まず、ず^まっと待^{さいしょ}ったこ^{さいしょ}とも最^{さいしょ}初^{さいしょ}のう^{さいしょ}ち^{さいしょ}はあ^{さいしょ} り^{びょういん}まし^した。病^{びょういん}院^{いん}で処^し方^し箋^しをもら^{くすり}い、薬^{くすり}は外^{そと}の薬^{やつきやく}局^{やつきやく} でもら^なうとい^なうシ^なス^なテ^なムも分^わかり^なませ^なん^なで^なした。困^{こま} てる人^{ひと}はか^{おほ}なり多^{おほ}いと思^{しずおかけん}いま^{しずおかけん}す。静^{しずおかけん}岡^{しずおかけん}県^{しずおかけん}のイン^{しずおかけん}ター^{しずおかけん} ネット^{じょうほう}での情^{じょうほう}報^{ほう}につ^{はつみ}いて、す^{はつみ}み^{はつみ}ませ^{はつみ}んが初^{はつみ}耳^{はつみ}です。 きほんてき じょうほうしゅうしゅう し あ おし 基^き本^き的^きに情^{じょうほう}報^{ほう}収^し集^あは、知^{おし}り^{おし}合^{おし}い^{おし}から教^{おし}えて^{おし}もら^{おし}う こ^{おほ}と^たと^{りゅうがくせい}、留^{がっこう}学^{せんせい}生^きは学^き校^きの先^き生^きから聞^き ます。特^{とく}に困^{こま}る^{こま}のは、工^{こうじょう}場^{はたら}で働^{けんしゅうせい}く研^{こくさいけつ}修^{こくさいけつ}生^{こくさいけつ}や国^{こくさいけつ}際^{こくさいけつ}際^{こくさいけつ} 婚^{こん}を^{ひと}した^{くち}人^だで、口^{くち}に出^だせ^だな^だか^だつたり、プ^{こん}ラ^{ひと}イ^{くち}ド^だがあ^だ たり^{ひと}して、人^{ひと}に聞^{ひと}け^きない^{ひと}人^{おほ}が^{おほ}多^{おほ}い^{おほ}か^{おほ}もし^{おほ}れ^{おほ}ませ^{おほ}ん。 にほんご こま そうだん だれ 日^{にほんご}本^{こま}語^{こま}で困^{そうだん}って^{そうだん}も、ど^{だれ}こ^{だれ}に相^{だれ}談^{だれ}す^{だれ}れば^{だれ}よ^{だれ}い^{だれ}のか、誰^{だれ}に た^たす^もと^もと^もを^わ求^{ひと}め^{おほ}て^{おほ}よ^{おほ}い^{おほ}のか、それ^{おほ}さ^{おほ}え^{おほ}分^{おほ}から^{おほ}ない^{おほ}人^{おほ}も^{おほ}多^{おほ} い^{おほ}と思^{おほ}いま^{おほ}す。今^{いま}では、国^{こくさいこうりゅうきょうかい}際^{こくさいこうりゅうきょうかい}交^{こくさいこうりゅうきょうかい}流^{こくさいこうりゅうきょうかい}協^{こくさいこうりゅうきょうかい}会^{こくさいこうりゅうきょうかい}がイン^{こくさいこうりゅうきょうかい}ター^{こくさいこうりゅうきょうかい}ネッ^{こくさいこうりゅうきょうかい}ト^{こくさいこうりゅうきょうかい}でも^{こくさいこうりゅうきょうかい}相^{こくさいこうりゅうきょうかい}談^{こくさいこうりゅうきょうかい}で^{こくさいこうりゅうきょうかい}き^{こくさいこうりゅうきょうかい}る^{こくさいこうりゅうきょうかい}窓^{こくさいこうりゅうきょうかい}口^{こくさいこうりゅうきょうかい}を^{こくさいこうりゅうきょうかい}開^{こくさいこうりゅうきょうかい}設^{こくさいこうりゅうきょうかい}した^{こくさいこうりゅうきょうかい}ので、それ^{こくさいこうりゅうきょうかい}に^{こくさいこうりゅうきょうかい}助^{こくさいこうりゅうきょうかい}け^{こくさいこうりゅうきょうかい}ら</p>

<p>小さな事業所の技能実習生は、会社に面倒も見てもらえず、私もかなりサポートしましたが、8、9月は本当に忙しい思いをしました。この点は、行政の方々に本当に分かっていたと思います。英語の情報にたどり着けても、日本にいる外国人に英語話者は少なく、今は、ポルトガル語、スペイン語、中国語、ベトナム語が多い状況です。行政の情報にたどり着くことが難しいと思いませんか。</p>	<p>れる人も増えてくるのではないかと思います。ワクチンの予約についても順調とは言えませんでした。電話予約もどうすればよいか分からず、今は、何とか2回打てるようになりましたが、最初のうちは、いずれ打てるようになるだろうと待っていたような状況でした。外国語の情報について、英語や中国語など、住民が多い国についてはサポートされていると思いますが、住民数が少ない国の言葉による情報はあまりないと思います。</p>
--	---

静岡市（国際交流課）への意見・質問

<p>4 外国人の高齢化への対応策として、高齢者に居心地の良い複合施設を提案します。静岡市はまだ合併のメリットが出ていないと感じます。草薙駅周辺に、コミュニケーションプラザ、センターをどうでしょうか。今年、市内に大学院大学ができ、大学が6つになりましたが誇るべきことです。1階は、大学の特色を生かしたPRコーナーを。2階は、外国人がいつでも来られるスペースを富士や浜松をお手本に。3階は、県を巻き込んで、市の負担で県立図書館分館か子ども図書館などを。4階は高齢者向けに、コミュニケーションで心身共に活性化するような、居心地の良い施設を民間運営で。こんな施設が2023年からあったらいいなと思います。</p>	<p>外国人に限らず、地域の日本人の交流場所となる複合施設について、具体的なご提案をありがとうございます。街で空き店舗を見かけると、こうした場所が交流拠点になるといいと思うこともあります。市全体での拠点を考えることも大切ですが、できれば、小学校区や中学校区など小さなエリアで、気軽に行ける場所があるとよいと思います。時期を決める難しさはありますが、公共施設の有効活用の点でも、いろいろな機能が集積されるほうがよいという流れですので、ぜひ、いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきたいと思えます。</p>
---	--

<p>5 国際交流協会の場所について、興味が無い人は分からないし、入りづらいと思います。豊橋にきれいな図書館ができましたが、2階の入口に国際交流協会があり、国際交流の情報も豊富で、入りやすいのが印象的でし</p>	<p>静岡市の国際交流協会は今、市役所の庁舎内にあります。その良さは、転入手続に来た方が行きやすい、分かりやすいところです。市役所にあるというチャンスを活かさなければいけないと思います。静岡市に引っ越してきた外国人に、同じ庁舎にある外国人</p>
--	---

<p>た。また、豊田市のイベントでは、写真付きで分かりやすい、市の日本語ボランティアの案内看板がありました。先日、わいわいワールドフェアで、日本語ボランティアのアピールをしましたが、市と一緒にアピールする機会があるといいなと思いました。</p>	<p>相談窓口をお知らせできることもとてもよいと思います。いただいたご意見のように、街中で気軽に入れる場所、豊橋市のように図書館の中など、立地については研究しなければならないと思います。行きやすい、入りやすい、分かりやすいという点、情報発信についても、継続的な課題として力を入れていきたいと思っています。</p>
<p>6 条例について、外国人にも、日本人にも、どう知ってもらおうか、お知らせの仕方が重要だと思っています。広報や、テレビ、ネットも大事ですが、一番大切なのは、地域の住民たちに、地域の情報誌、組長会、町内会などで、回覧で伝えることだと思っています。個人情報問題があり、自分の町内、小学校の学区にどういう人たちが住んでいるのか住民は知りません。このアパートには研修生が住んでいると、個人宅だと分かることもありますが、団地とか工場関連は噂でしか知りえません。交流がないからだと思っています。神社や店舗の入口前の階段に座っていたりしますが、周りの人はなんだろうかと思っています。その国の人にとっては普通のことかもしれない。そういうことを我々自身も知らないといけないし、地域全体としても、町内にどんな方がいるかということもある程度知ったほうが良いのではないかと思います。お知らせの仕方も、1万1千人いる中で、この町内にどんな人が暮らしているかということまでして、初めて、自分の地域が分かるのではないかと思います。</p>	<p>本日お越し頂いた皆様は多文化共生に関心のある方々かと思っています。条例を作っただけでは何も知ってもらえません。条例に込めたメッセージをどう伝えていくかは市役所の仕事で、その後、2023年から始まる計画をつくりますが、先ほどのお話や皆様の思いを実現できれば本望だと思っています。まずは、関心を持ってもらうことが市の責任だと思っています。多文化共生に関心のある方、何かやってみたい方、問題意識のある方が地域の中にたくさんいると感じています。したがって、特に力を入れたいことのひとつは、地域の中での講座を広げていくことです。現状、出前講座としてリクエストに応じて、例えば、自治会・町内会なども対象に講座を開いています。また、国際理解については、市の国際交流員がこども園や生涯学習センターで講座を開いています。講座を通して、メッセージを伝えることに注力していきたいと思っています。市民の皆様とも一緒に取り組んでいきたいと考えています。</p> <p>小学校区にどの国の人が何人いるかが分かると、現場での活動に心構えができるのかとも思いますが、個人情報を扱うことは難しい面があります。何らかの方法でお示しできないか考えたこともありますが、国籍の情報は気を付けなければならない</p>

		<p>じょうほう ひと じちかい ぼうさい めん 情報の一つです。自治会では防災の面などでも げんじつてき もんだい おも こうりゅう なか 現実的な問題だと思いましたが、交流の中でコミュニ ケーションを取っていくことが大切だと思ひます。 かだい 課題としてあることは良く分かりました。</p>
7	<p>がいこくじん かた ちょうじ かんはたら たいへん おも 外国人の方が長時間働いていて大変だと思 うことがあります。日本語教育も国の法律が できたので自治体としても推進してほしいと 思ひます。コミュニティの中だけでは、その国 の言葉で済んでしまうところがあるようで す。20歳代の方などとても一生懸命な方がい て、コロナ禍で日本人でも仕事が見つからな いような中で、外国人の方も支援制度などを 活用してもらえればと思ひますがどうでしょ うか。</p>	<p>がくせい わか せだい かたがた ひじょう くるう コロナで学生や若い世代の方々が非常に苦勞してい ることを聞ひています。行政の支援は、日本人と変 わらず、同じように受けられますが、情報が行き届 かないことが心配です。先ほどのご質問でも、ワクチ ンの予約が取れていない、打てていないという話も ありました。行政サービスの情報、特にコロナに関 してはなるべく多言語で、動画を作るなどの工夫もし ながら発信していますが、伝わらない点は反省をして います。例えば、読めない封筒が届くだけでは伝わり ません。条例ができ、実際に機能して、情報が入手 しやすくなることが一つの重要なポイントだと考 えますので、力を入れていきたいと思ひます。貴重 なご意見ありがとうございます。</p>

ご意見をください!

静岡市内に住む人、通勤・通学する人、または、市内の法人・団体は、どなたでも応募できます。

静岡市多文化共生のまち推進条例への意見募集

静岡市は、国籍や民族などが異なる人々が、互いの文化的ちがいを尊重し、ともにこのまちで安心して暮らすことができるよう、「静岡市多文化共生のまち推進条例」を制定し、相互理解と思いやりにあふれるまちづくりを進めていきます。

このたび、条例案の骨子をつくりましたので、市民の皆様からのご意見を募集します。ご提出いただいたご意見は、案への反映を検討して、結果をまとめしだい公表します。

※ 住所、氏名など、応募者の個人情報等は公表しません。

1 意見募集期間

2022（令和4）年1月26日（水）～2月25日（金）

2 配付（閲覧）資料

- (1) 意見募集案内 ※この用紙
- (2) 意見応募用紙 [別紙]
- (3) 「静岡市多文化共生のまち推進条例」制定の背景 [資料1]
- (4) 「静岡市多文化共生のまち推進条例」案の骨子 [資料2]
- (5) 多文化共生のまち推進イメージ [資料3]

パブリックコメントは、日本語のほか、英語、中国語、ベトナム語、ポルトガル語、やさしい日本語で実施します。


提出意見の言語は問いません。

3 配付（閲覧）場所

- (1) 市国際交流課 [市役所静岡庁舎新館 17階]
- (2) 各区の市政情報コーナー [葵区役所 1階、清水区役所 4階、駿河区役所 3階]
- (3) 市ホームページ

4 意見の提出方法

次のいずれかの方法により、2022（令和4）年2月25日（金）までに、「意見応募用紙」を市国際交流課まで提出してください。

	提出方法	あて先等	受付について
ア	郵送	〒420-8602（住所不要） 静岡市国際交流課あて	2月25日の消印有効
イ	文書の持参	静岡市葵区追手町5-1 静岡市役所静岡庁舎新館 17階 国際交流課	平日 8:30～17:15
ウ	ファクシミリ	FAX 054-221-1518 ※送信票はいりません	24時間受付 2月25日 24:00 まで
エ	電子申請 	以下の URL または QR コードのページから、「パブリックコメント専用フォーム」に入力することで意見の応募が簡単できます。 静岡市多文化共生のまちづくり URL https://www.city.shizuoka.lg.jp/799_000146.html	24時間受付 2月25日 24:00 まで ※ただし、メンテナンス等で受けられない時間があります

※ 個人情報保護の観点から、電子メールでの提出は受けておりません。ご了承ください。

問い合わせ

静岡市 観光交流文化局 国際交流課
電話 054-221-1303 FAX 054-221-1518



静岡市は多文化共生社会の実現を目指しています。

静岡市多文化共生のまち推進条例 意見応募用紙

1 静岡市で、多文化共生を進めることは、必要だと思いますか。

(1つ選んで○を付けてください。) ア. 思う イ. 思わない ウ. わからない

(その理由を書いてください。)

2 [資料2] 「静岡市多文化共生のまち推進条例」案の骨子について、意見をお書きください。

住 所

(法人・団体は、所在地)

氏 名

(法人・団体は、名称及び代表者氏名)

ありがとうございます。裏面の注意事項を必ず確認してください。

【静岡市国際交流課】

【意見の提出にあたっての注意事項】

- 1 住所、氏名欄は、必ず記入してください。この意見募集は、静岡市市民参画の推進に関する条例及び同施行規則に基づき実施しています。ご協力をお願いします。

静岡市市民参画の推進に関する条例施行規則 第5条第4項

意見を提出する市民は、個人の場合にあつては住所及び氏名、法人その他の団体の場合にあつては名称、所在地及び代表者の氏名を明らかにしなければならない。

- 2 提出いただいた意見は、「静岡市多文化共生のまち推進条例案」への反映を検討し、結果をまとめしだい、意見の要旨とその回答（意見に対する市の考え方）を応募者個人が特定できないよう編集した上で、国際交流課、各区の市政情報コーナー、市ホームページで公表します。
- 3 記入欄に書ききれない意見については、記入欄に「別紙のとおり」と書いて、任意の用紙にて提出することも可能です。※電子申請の場合を除く。
- 4 個人情報については、厳正に管理し、「静岡市市民参画の推進に関する条例」に基づく市民意見聴取の目的以外では使用いたしません。

【お問い合わせ】

静岡市 観光交流文化局 国際交流課 電話 054-221-1303 FAX 054-221-1518

「静岡市多文化共生のまち推進条例」制定の背景

外国人住民が増加する中、本市は、このまちで生活するすべての人が、互いの文化的ちがいを尊重し、ともにこの静岡市で暮らすことができるよう、「多文化共生のまち推進条例」制定の準備をしています。

静岡市の現況と課題 静岡市の状況は？

- ◇ 本市の人口は、現在約 69 万人で減少傾向ですが、外国人住民は、約 1.1 万人で近年急増しています。
- ◇ ことばや文化が異なる 85 の国籍の市民が、特定の場所に偏らずに、市内各所で生活しています。
- ◇ 本市は、2014（平成 26）年に「静岡市多文化共生推進計画」をつくり、各種事業に取り組んでいます。

<課題>

- ◇ 地域・職場・学校などで、文化や生活習慣の違い、無知や無関心からのトラブルや差別が依然みられます。
- ◇ 情報格差を生まないよう多言語での対応や、日本語に不慣れな児童・生徒等への対応強化が求められています。
- ◇ 言葉や心の壁を理由に、周囲から孤立する子どもやお年寄りが増えることが心配です。

「多文化共生」とは？

<総務省>

2006(平成 18)年、地域における「多文化共生」を「国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的ちがいを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと」と定義し、地方自治体による多文化共生の推進を図っています。

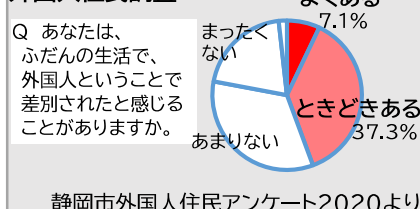
<静岡県>

2008(平成 20)年、「静岡県多文化共生推進基本条例」を定め、「多文化共生」を「県内に居住する外国人及び日本人が、相互の理解及び協調の下に、安心して、かつ快適に暮らすこと」とし、市町と協働して取り組んでいます。

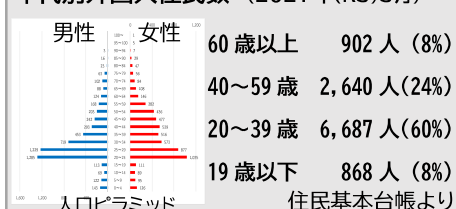
外国人住民数の推移



外国人住民調査



年代別外国人住民数 (2021年(R3)3月)



条例制定の必要性 なぜ条例をつくるの？

★ 社会的包摂（ソーシャル・インクルージョン）が進む「まち」のために

地域・職場・学校・家庭などのあらゆる場面で、国籍や民族などによる差別をなくし、市民一人ひとりがお互いを認め合い、助け合い、学び合い、誰一人取り残さない社会的包摂（ソーシャル・インクルージョン）を進める必要があります。

★ 多様性を活かす「まち」のために

市民一人ひとりが、それぞれ異なる個性（多様性）を発揮し、協働して、まちの活性化を図ることで、世界から選ばれる持続可能なまちの実現につなげていく必要があります。

このため、本市は、静岡県の条例で推進している「外国人と日本人の相互理解や協調により、安心して快適に暮らすこと」を前提に、「多文化共生のまち」を次のように定義します。

多文化共生のまち すべての人が、互いの文化的ちがいを尊重し、助け合い、学び合い、一人ひとりの個性を活かして、ともに行動するまち

これは、SDGs*の目標「10. 人や国の不平等をなくそう」「17. パートナーシップで目標を達成しよう」に沿ったものです。*SDGs（エスディー・ジーズ）…国連が提唱する持続可能な開発目標

条例ができると…

- ◎ 市は、「多文化共生のまち」を推進するための施策の柱（どのようなことに取り組んでいくか）を定め、様々な取組を計画的に、継続して行います。
- ◎ 市、市民、事業者・団体の共通の考え（基本理念）を示した上で、それぞれの責任や役割（責務）を定めて、差別をなくし、助け合いや学び合いを進める、主体的な行動を促します。

\\ \\ \\ このようなまちを目指します！ // // //

災害時などにも備え、みんなで助け合い、安心、安全に暮らせるまち

豊かな交流から、互いに学び合い、信頼しあえる関係をはぐくみ、幸せを実感できるまち

多様性を認め合い、誰もが「静岡人」（ともに静岡市で生活する仲間）という共通の誇りを持てるまち



一人ひとりが個性と能力を発揮して、グローバルに発展していくまち

静岡市多文化共生協議会より

静岡市の状況

日本の文化や習慣をもっと知りたいなあ

日本のルールを守ってほしいけどどう伝えよう

むずかしいにほんごはよめません

英語ができないけど留学生と話したいなあ



外国籍の市民

- 半数が20～30歳代前半
- 言葉や文化もさまざまな出身国
- 特定の地域にかたよることなく市内各所で生活

これからを考えると不安に…

- ◆ 生活習慣の違いや無知からの差別やトラブル
- ◆ 言葉や心の壁からの子どもや高齢者の孤立 など

このパブリックコメントの意見を踏まえ、市議会で決定します。

静岡市多文化共生のまち推進条例

静岡市の将来に向けて「多文化共生」にどう取り組んでいくか、共通の考えや、市・市民・事業者や団体の約束事などを決めます。

2022(令和4)年7月 施行予定

多文化共生推進計画の策定

※ 内容は未定です。

- 条例をもとに、具体的な事業を検討し、計画的に実施します。
- まずは、2022（令和4）年度中に、2030（令和12）年度までの計画をつくりま

生活環境の整備

<事業例>

- 外国人相談の充実
- 多言語・やさしい日本語での情報提供
- ライフステージ・在留資格別支援（福祉、就労、子育て、自治会、防災等）
- 防災対策・多言語センター運営 等

教育の充実

<事業例>

- 国際理解講座
- 多文化共生のまち啓発講座
- 進学ガイダンス・相談会
- 学校における日本語指導
- 生活者のための日本語教室 等

地域における交流促進

<事業例>

- 静岡わいわいワールドフェアの拡充
- 多文化共生交流スポット整備
- 留学生との座談会
- 地域のお祭り・交流会参加促進
- 外国語絵本読み聞かせ会 等

人材の育成

<事業例>

- 多文化共生サポーター養成
- やさしい日本語講座
- 事業者対象研修
- 日本語教育人材育成
- 自治会・町内会対象研修 等

社会的包摂（ソーシャル・インクルージョン）が進む

地域での助け合いや学び合いにより安心・安全で、幸せを実感できるまちに

多様性を活かす

文化的背景のちがう人の視点や考えをまちの活性化につなげる

こんなまちにします

わたしたち、みんな、静岡人。



多文化共生のまち



「静岡市多文化共生のまち推進条例」案の骨子

◇ 条例の名称は、「静岡市多文化共生のまち推進条例」とし、次のようなことを規定します。

目的	「多文化共生のまち」の推進について、基本理念、市、市民、事業者・団体の責務、施策の柱を定め、総合的、計画的に推進することにより、多様性と社会的包摂のあるまちの実現を目指す。
定義	「多文化共生のまち」とは、「すべての人が、互いの文化的ちがいを尊重し、助け合い、学び合い、一人ひとりの個性を活かして、ともに行動するまち」とする。 ポイント 「多文化共生のまち」という言葉の意味を定めて、将来に向けたまちづくりを進めます。
基本理念 ※条例の最も重要な部分。市、市民、事業者・団体共通の基本的な考え。	「多文化共生のまち」の推進は、すべての人が、平等で人権が尊重され、国籍や民族などで差別されず、誰一人取り残さない社会的包摂のもと、多様性を活かし、すべての人が幸せを感じることできる、持続可能なまちづくりのために行われる。 ポイント 静岡市では、「外国人」「日本人」を分けることなく、みんな「静岡人（ともに静岡市で生活する仲間）」の視点から、国籍や民族などによる差別をなくし、助け合いと学び合いを進め、一人ひとりの個性を活かしたまちを目指します。
市の責務	基本理念にしたがって、「多文化共生のまち」の推進の総合的な取組を決め、実施する。
市民の責務	基本理念にしたがって、国籍、民族などによる差別をすることなく、地域、職場、学校、家庭などで、助け合いや学び合いに努める。 <small>※「市民」とは、「市内に居住または通勤・通学する人、市内で事業や活動をする個人」のことをいいます。</small>
事業者・団体の責務	基本理念にしたがって、採用募集や労働条件、サービスの提供などの事業活動において、国籍、民族などによる差別をすることなく、助け合いや学び合いを広め、市民一人ひとりが活躍できるよう努める。また、市の「多文化共生のまち」推進の事業に協力するよう努める。 <small>※「事業者・団体」とは、「市内に所在地を置く法人(企業、社会福祉法人、NPO法人、学校等)、自治会・町内会、法定・任意の団体・グループ等」のことをいいます。</small>

市は、「多文化共生のまち」の推進について、次の4つを「施策の柱」とします。

施策の柱	生活環境の整備	安心できる生活を送るために必要な取組を行う。 <small><事業例></small> ・ 福祉、就労、子育て、自治会、防災などの情報の分かりやすい提供 <small>・ 外国語による相談体制の強化 など</small>
	教育の充実	学校教育と生涯学習の取組を充実する。また、日本語教育を必要とする人が日常生活や社会生活を円滑に営むことできるよう、その取組を充実する。 <small><事業例></small> ・ 日本の生活習慣・ルールなどの講座開催 <small>・ 児童生徒や生活者への日本語教育の推進 など</small>
	地域における交流促進	地域における交流促進のために必要な取組を行う。 <small><事業例></small> ・ 外国や日本の文化を体験するイベント・場所の充実 <small>・ 留学生と地域住民の交流会開催 など</small>
	人材の育成	生活環境の整備、教育の充実、地域における交流促進の取組を進めるために、人材育成を充実する。 <small><事業例></small> ・ 多文化共生の市民サポーター育成 <small>・ 自治会や事業所などでの外国籍市民の活躍支援 など</small>
既存の計画・協議会を条例に位置付け	多文化共生推進計画	多文化共生のまちの推進の取組を総合的、計画的に行うため、市民の意見、多文化共生協議会の意見を聞いた上で、多文化共生推進計画をつくる。計画ができたとき、また、変更したときは、なるべく早く公表する。
	多文化共生協議会	多文化共生のまちの推進の基本的な取組と重要なことを審議するために、静岡市多文化共生協議会を置く。協議会は市長に意見することができる。

しずおかし たぶんかきょうせい いけん
「静岡市 多文化共生の まち すいしん じょうれい」 への 意見を ください！

しずおかし たぶんかきょうせい
静岡市は、多文化共生の じょうれい を つくります。

がいこくじん にほんじん あんしん しずおかし ほう るーる
外国人も 日本人も 安心して くらすための 静岡市の 法りつ(ルール)です。

「じょうれいの おもな ないよう」を よ 読んで 意見を ください。

みなさんの いけん で じょうれいを かんせい 完成させます。



いけん だ ひと
【 意見を 出せる 人 】

- しずおかし ひと
・静岡市に すんでいる 人
- しずおかし ひと がっこう ひと
・静岡市で はたらいている人、学校に かよっている 人
- しずおかし かいしゃ ぐるーぷ
・静岡市に ある 会社や グループ

いけん だ ひ
【 意見を 出せる 日 】

2022年 1月26日(水曜日) ~ 2022年 2月25日(金曜日)

いけん だ かた
【 意見の 出し方 】

だし方 は ①インターネット、②ゆうびん、③市役所 にもっていく ④FAX

①~④の どれかを えらび 出して ください。 電子メールでは 出せません。

いんたーねっと
①インターネット



した いんたーねっと サイト から 答えます。


ことば は、「日本語」「やさしい 日本語」「英語」「中国語」

べとなむご ぼるとがるご
「ベトナム語」「ポルトガル語」が あります。

https://www.city.shizuoka.lg.jp/799_000146.html

QRコードを スキャン してください。



<p>②ゆうびん</p>	<p>「おうぼ用紙」に 意見を 書きます。 ふうとうに 入れて、市役所におくります。 【ゆうびん の あて先】 ふうとうに、 「〒420-8602 静岡市役所 国さい交りゆうか あて」 と書くと 届きます。 ※ 2月25日 の けしいん ゆうこう です。</p>
<p>③市役所にもっていく</p>	<p>「おうぼ用紙」に 意見を 書きます。 市役所 の 国さい交りゆうか にもっていきます。 【国さい交りゆうかの 場所】 静岡市 葵区 追手町 5-117かい ※ 午前8時30分から 午後5時15分 まで あいています。 ※ 土曜日、日曜日、しゅく日は、しまっています。</p> 
<p>④FAX <small>ふあくしみり (ファクシミリ)</small></p>	<p>「おうぼ用紙」に 意見を 書きます。 FAXで おくります。 【FAX 番号】 054-221-1518</p>

「じょうれいの しりょう」と「おうぼ用紙」は、 次の 場所で もらうことができます。

- ① 市役所 国さい交りゆうか (静岡市役所 17かい)
- ② 区役所の 市せい じょうほう コーナー
(葵区役所 1かい、 清水区役所 4かい、 駿河区役所 3かい)
- ③ 市のホームページ https://www.city.shizuoka.lg.jp/799_000146.html



「じょうれいの しりょう」と「おうぼ用紙」は、
 日本語、やさしい日本語、英語、中国語、ベトナム語、ポルトガル語があります。
 意見は、自分の 好きな 言葉で 出せます。

2022(れいわ4)年 2月25日 (金曜日)までに 出して ください。

ゆうびん 〒420-8602 静岡市 国さい交りゆうか (じゅうしょは いりません)

FAX 054-221-1518

おうぼ 用紙

1 静岡市で 多文化共生を すすめることは ひつようだと おもいますか？

(1つ えらんで ○をつけて ください。)

おもう	おもわない	わからない
-----	-------	-------

(その りゆうを 書いてください。)

2 「じょうれいの おもな ないよう」を 読んで、意見を 書いて ください。

3 じゅうしょと 名前を 書いて ください。(かならず 必要です。)

じゅうしょ	
なまえ	

※ 意見は じょうれいを 作る ために つかいます。

※ だれの 意見か わからない ようにします。そして ホームページ などでお知らせ します。

※ こじんの じょうほうは ほかの もくてきでは つかいません。

わからない ことが あったら、静岡市 国さい交りゆうかに 電話して ください。

TEL 054-221-1303

しずおかし たぶんかきょうせい
静岡市 多文化共生のまち すいしん じょうれい

1 「多文化共生」とは何ですか？

こくせき や じんぞく が ちがっても 「ともに暮らすなかま」として 大切にしましょう。
それぞれの 文化や ことばを 大切にしましょう。それが 「多文化共生」の いみで
す。静岡市は そのために いろいろな 取りくみを します。

2 今の静岡市

しずおかし じんこう は、690,000人くらいです。毎年 へっています。しかし、外国人は、11,000
人くらいです。2013年から ふえています。85の国の 人たちが 静岡市の いろいろな
ところに すんでいます。日本語が わからない人に わかりやすく じょうほうを つたえる
ことが たいせつです。2020年に 外国人 3,000人に しつもんを しました。外国人とい
う理由で、さべつされた人が 40%いました。ことばや しゅうかんの ちがいで トラ
ブルが おきるかもしれません。とても しばいです。

3 じょうれいとは何ですか？

くに ほうりつを つくります。けん や し は、ルールを きめることができます。
これを じょうれいと よびます。

4 なぜじょうれいをつくりませんか？

- ① ほかのひとを 国せきや みんなぞくなどで さべつしてはいけません。
- ② 自分も ほかの人も たいせつに しないと いけません。
- ③ 静岡市を これからも ずっと ゆたかな まちに したいです。

5 もくひょうは 何ですか？

- ・それぞれの 文化を たいせつに することです。
- ・みんなが たすけあったり、まなびあったり することです。
- ・それぞれの こせいを いかす ことです。

6 じょうれいができるとどうなりますか？

- ① きほんりねん（みんなの おなじ 考え）が できます。
- ② みんなが しなければ ならないことが きます。
- ③ 市やくしよは 多文化共生のために もくひょうや けいかくを たてて しごとを します。

7 じょうれいの おもな ないよう

- ◇ じょうれいの ^{なまえ}名前
^{しずおかしたぶんかきょうせい}「静岡市多文化共生のまち すいしん じょうれい」です。
- ◇ もくてき
^{しずおかし}静岡市にすむ ^{ひと}すべての人が ^{せい}あんしん、あんぜんな ^{せい}生かつかが できるようにします。
- ◇ きほんりねん
- ・だれも ^{こく}国せきや ^{こく}みんぞくなどで さべつ されません。
 - ・けんりを ^{こく}たいせつに します。
 - ・だれひとり ^{こく}とりのこされません
 - ・みんなが ^{こく}しあわせを ^{こく}かんじる ことができます。
 - ・みらいまで ^{こく}ずっと つづく まちに します。
- ◇ いちばん だいじな こと
^{こく}国せき などが ^{しずおかしん}ちがっても、みんな「^{しずおかしん}静岡人」です。
たすけあったり、まなびあったりします。
それぞれの ^{こく}こせいを ^{こく}いかした まちを ^{こく}めざします。
- ◇ しなければ ならないこと
- ・市役所は、^{こく}多文化共生のまち を つくるために ^{こく}ひつような ことを します
 - ・市みんは、^{こく}さべつを ^{こく}しません。 ^{こく}たすけあいや ^{こく}まなびあいを します。
 - ・会社や ^{こく}グループは、^{こく}はたらく ^{こく}ひとや ^{こく}きゃくを ^{こく}さべつ ^{こく}しません。 ^{こく}たすけあいや ^{こく}まなびあいを ^{こく}広めます。 ^{こく}みんなが ^{こく}力を ^{こく}出せるように します。 ^{こく}市役所を ^{こく}たすけます。
- ◇ ^{しやくしよ}市役所が「^{たぶんかきょうせい}多文化共生」の ^{せい}ために すること
- ① ^{せい}みんなが ^{せい}あんしんして ^{せい}生かつかできるように します。
 - ② ^{しゃかい}社会で ^{せい}こまらないような ^{せい}きょういくを ^{せい}すすめます。
 - ③ ^{こく}国せき などが ^{ひと}ちがう人が ^{せい}こうりゅうするために ^{せい}ひつような ことを します。
 - ④ これらのことが ^{せい}できるように ^{ひと}人を ^{せい}そだてます。

8 じょうれいは いつ できますか？

2022年6月から 7月に ^{しずおかし}静岡市ぎ会が ^{かい}ひらかれます。 ^{せい}そこで ^{せい}はなしあい、^{せい}けっていします。